



平成 30 年度

全国学力・学習状況調査結果報告



川西市教育委員会

目 次

I. 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 実施日
- (3) 調査内容
- (4) 市内の参加状況
- (5) 分析の際の基準の考え方

II. 平成 30 年度川西市の調査状況

川西市の学力状況

- (1) 教科全体の平均正答率
- (2) 川西市の平均正答率の推移
- (3) 教科に関する状況

III. 平成 27 年度と平成 30 年度（同一児童生徒）調査結果の追跡

IV. 平成 30 年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

- (1) 学習環境、学校生活等における平成 30 年度質問紙調査結果の概要
- (2) 学習環境、生活習慣等に関する質問紙調査結果経年比較並びに平成 30 年度質問紙調査結果と学力のクロス分析

V. 今後の取り組みについて

I. 調査の概要

(1) 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(平成 30 年度実施要項より)

(2) 実施日

平成 30 年 4 月 17 日 (火)

(3) 調査内容

- 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の児童生徒対象
- 教科に関する調査 (国語、算数/数学、理科)
 - ①主として「知識」に関する (A) 問題
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
 - ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
 - ②主として「活用」に関する (B) 問題
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力に関わる内容
 - ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容など
- ※理科の問題については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に問う形式となっている。
- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査

(4) 市内の参加状況

- 小学校実施人数 (16 校) 1,351 人
- 中学校実施人数 (7 校) 1,254 人

(5) 調査結果の取扱いについて

本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、文部科学省は、調査結果公表にあたって、序列化や過度な競争につながらないように十分に配慮することとしている。

また、調査結果の状況について、文部科学省は、「ほとんどの都道府県が平均正答率の±5%の範囲内にあり、大きな差は見られない」と表現している。こうした、文部科学省の趣旨を踏まえながら、本市においても、市全体の結果を把握・検証することで、教育施策や教育実践の改善につなげていくことを基本理念とし、公表資料を作成するものとする。

II. 平成 30 年度川西市の調査状況

(1) 教科全体の平均正答率

* 各教科ごとの平均正答率については、平均正答数÷調査問題数により算出

【小学校】

- **国語 A（知識）平均正答率は 67%（兵庫県 70%、全国 70.7%）**
【平均正答数 川西市：8.1 問/12 問、兵庫県：8.4 問/12 問、全国：8.5 問/12 問】
- **国語 B（活用）平均正答率は 52%（兵庫県 54%、全国 54.7%）**
【平均正答数 川西市：4.2 問/8 問、兵庫県：4.3 問/8 問、全国：4.4 問/8 問】
- **算数 A（知識）平均正答率は 62%（兵庫県 63%、全国 63.5%）**
【平均正答数 川西市：8.7 問/14 問、兵庫県：8.8 問/14 問、全国：8.9 問/14 問】
- **算数 B（活用）平均正答率は 51%（兵庫県 52%、全国 51.5%）**
【平均正答数 川西市：5.1 問/10 問、兵庫県：5.2 問/10 問、全国：5.1 問/10 問】
- **理科平均正答率は 59%（兵庫県 59%、全国 60.3%）**
【平均正答数 川西市：9.5 問/16 問、兵庫県：9.5 問/16 問、全国：9.6 問/16 問】

全国の平均正答率と比較すると、いずれも±5%の範囲内にある。

【中学校】

- **国語 A（知識）平均正答率は 78%（兵庫県 77%、全国 76.1%）**
【平均正答数 川西市：25.0 問/32 問、兵庫県：24.6 問/32 問、全国：24.3 問/32 問】
- **国語 B（活用）平均正答率は 64%（兵庫県 61%、全国 61.2%）**
【平均正答数 川西市：5.8 問/9 問、兵庫県：5.5 問/9 問、全国：5.5 問/9 問】
- **数学 A（知識）平均正答率は 71%（兵庫県 69%、全国 66.1%）**
【平均正答数 川西市：25.6 問/36 問、兵庫県：24.7 問/36 問、全国：23.8 問/36 問】
- **数学 B（活用）平均正答率は 53%（兵庫県 48%、全国 46.9%）**
【平均正答数 川西市：7.4 問/14 問、兵庫県：6.8 問/14 問、全国：6.6 問/14 問】
- **理科平均正答率は 69%（兵庫県 67%、全国 66.1%）**
【平均正答数 川西市：18.5 問/27 問、兵庫県：18.1 問/27 問、全国：17.9 問/27 問】

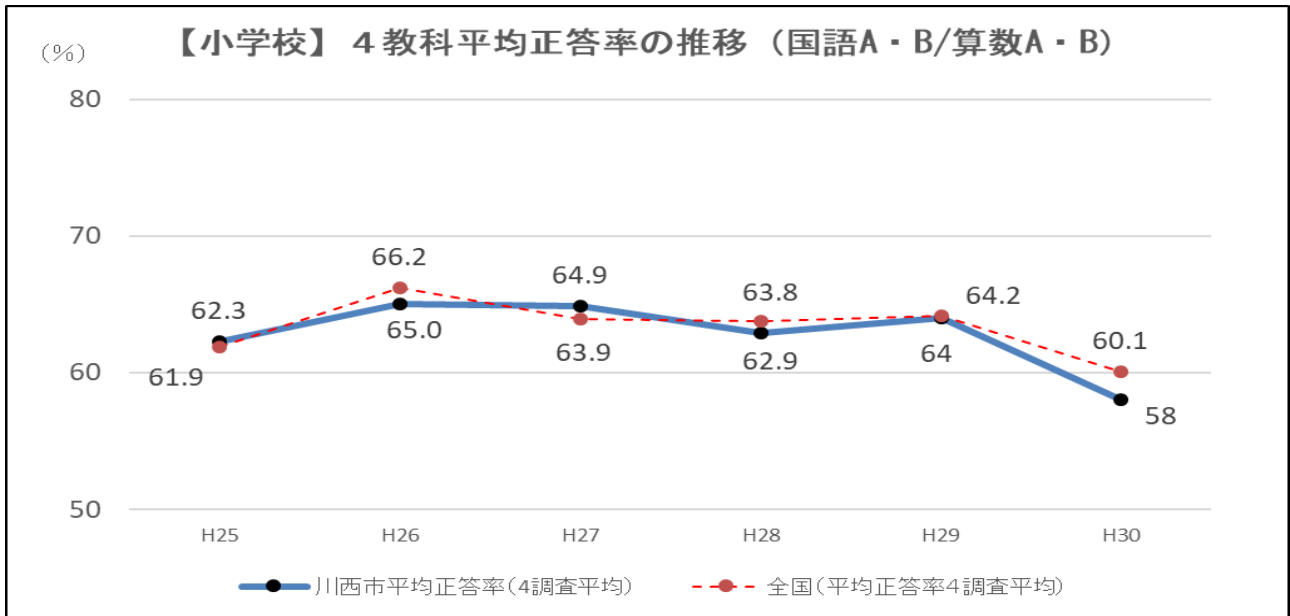
全国の平均正答率と比較すると、いずれも±5%の範囲内または上回っている。

(2) 川西市の平均正答率の推移

*各年度ごとの平均正答率は、国語A・B、算数/数学A・Bを合計した平均により算出

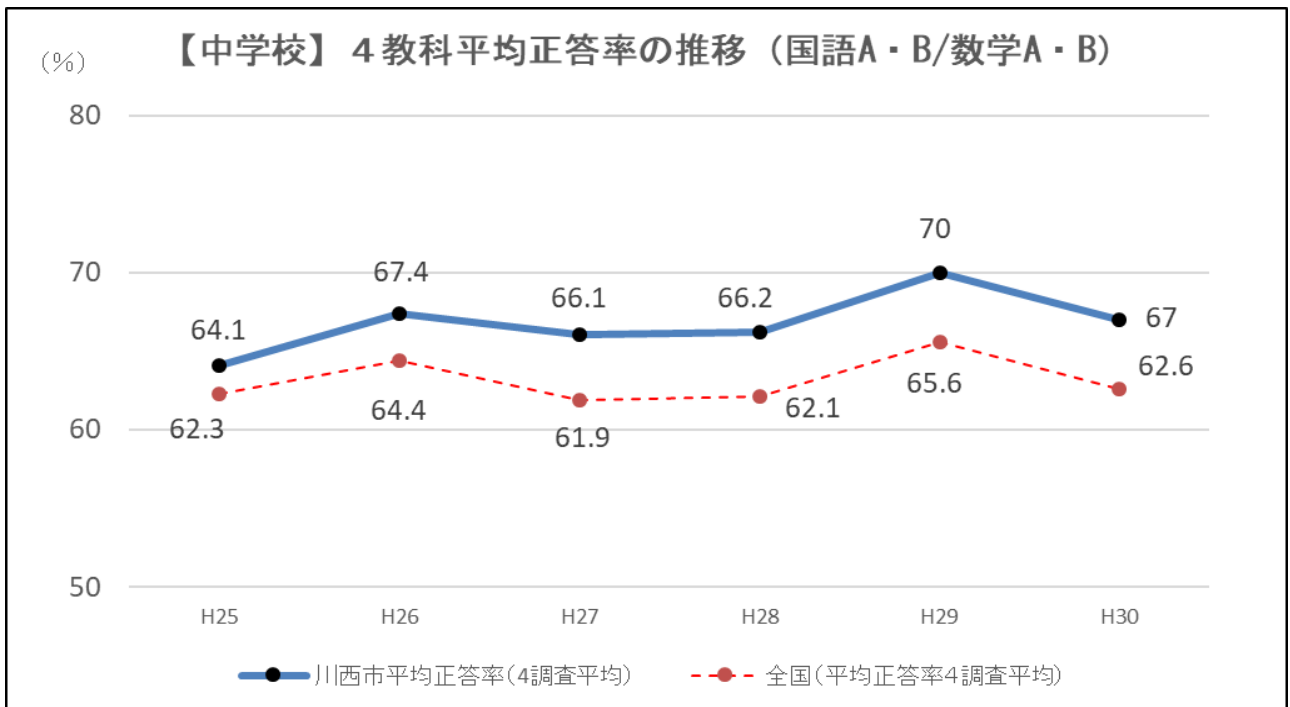
*平成29年度から、各市町の平均正答率は、整数値での公表となっている

【小学校】



年度によりバラつきがみられるものの、川西市平均正答率（4調査平均）は全国平均正答率（4調査平均）と僅差で前後する状況であり、総じて良好な状況と言える。

【中学校】



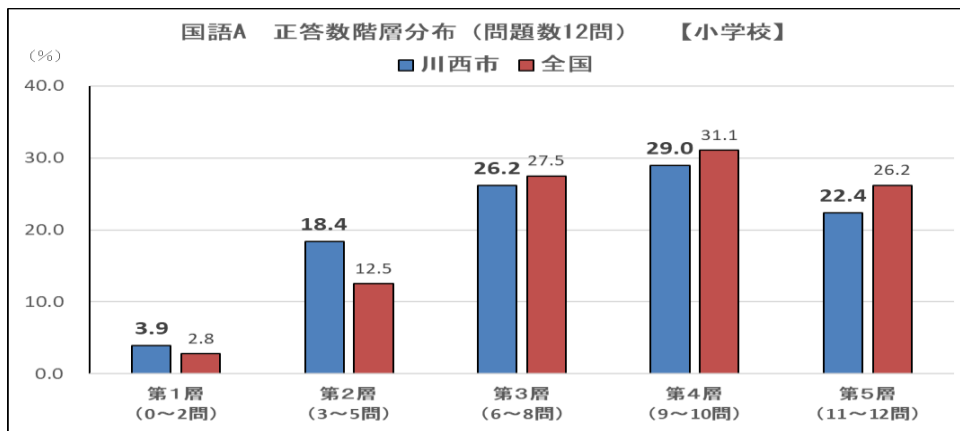
年度に大きく左右されることなく、川西市平均正答率（4調査平均）は、2～4%、全国平均正答率（4調査平均）を上回っており、安定した学力の定着を見せている。

(3) 教科に関する状況

※1つの問題が複数の領域区分に該当する場合がありますため、学習指導要領の領域別に記載している問題数を合計した数は、実際の問題数と一致しない場合があります。

【小学校 国語A】

正答数階層別分布状況

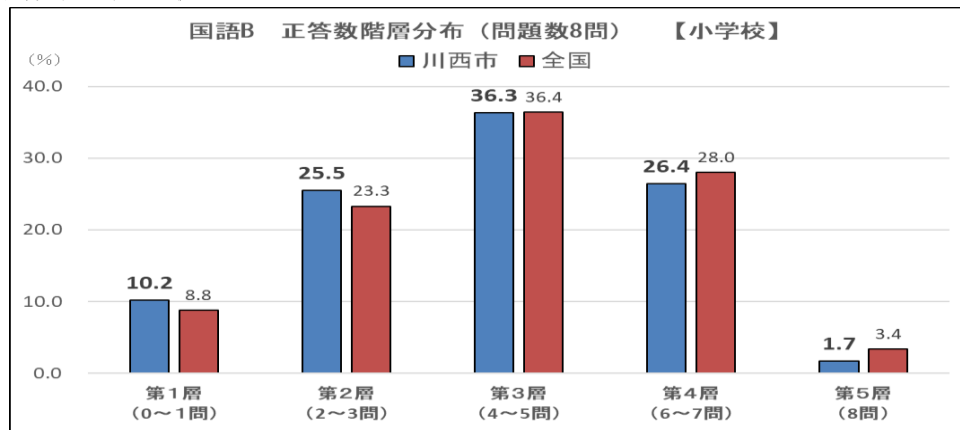


学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		話すこと・聞くこと (1問)	書くこと (1問)	読むこと (2問)	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (8問)
平均正答率 (%)	川西市	90	72	74	62
	全国	91	74	74	67
	全国との差	-1	-2	0	-5

【小学校 国語B】

正答数階層別分布状況



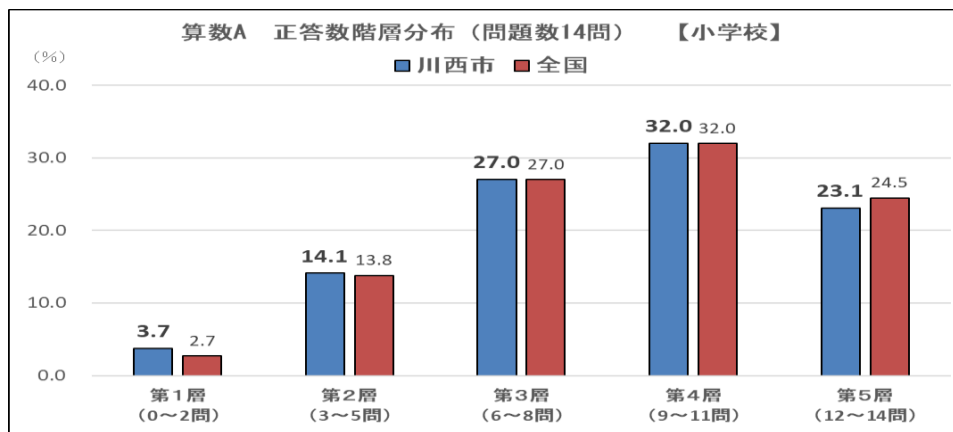
学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		話すこと・聞くこと (3問)	書くこと (5問)	読むこと (2問)	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (0問)
平均正答率 (%)	川西市	64	42	47	
	全国	65	46	51	
	全国との差	-1	-4	-4	

- ・正答数階層分布では、全国と比較して第2層が多く、第4層、5層がやや少なくなっている。
- ・国語A「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域において、全国と比較して5%、国語B「書くこと」「読むこと」領域において、全国と比較して4%の差となっている。

【小学校 算数A】

正答数階層別分布状況

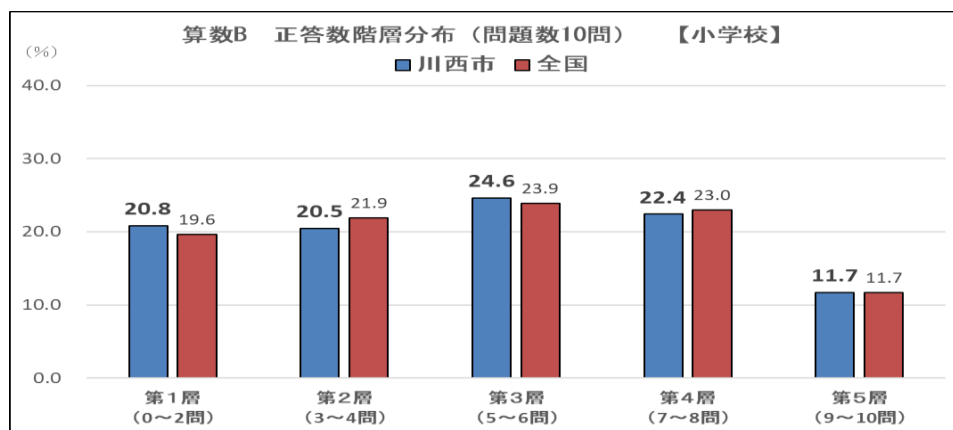


学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		数と計算 (5問)	量と測定 (4問)	図形 (3問)	数量関係 (5問)
平均正答率 (%)	川西市	61	72	55	59
	全国	62	73	57	60
	全国との差	-1	-1	-2	-1

【小学校 算数B】

正答数階層別分布状況



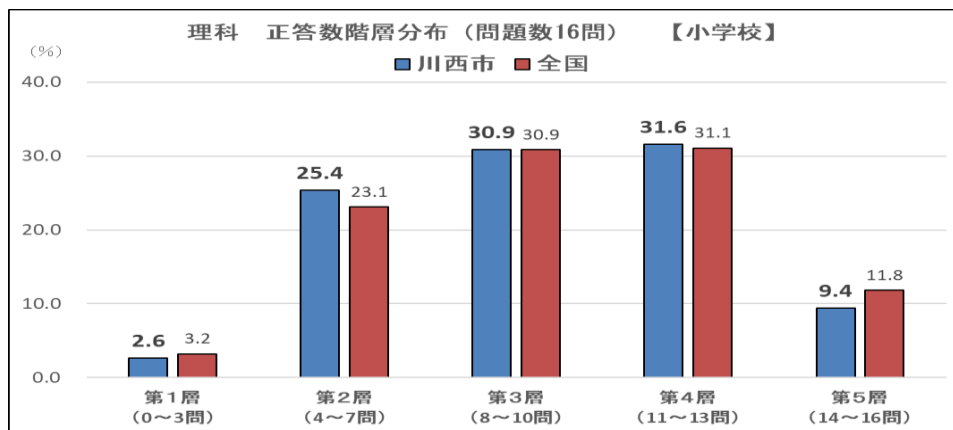
学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		数と計算 (6問)	量と測定 (4問)	図形 (2問)	数量関係 (5問)
平均正答率 (%)	川西市	59	53	57	46
	全国	58	52	60	45
	全国との差	+1	+1	-3	+1

- ・ 正答数階層分布では、第3層が支えとなりながら、全国とほぼ同程度の傾向となっている。
- ・ 算数Aでは、「図形」領域において、全国と比較して2%の差となっている。
- ・ 算数Bでは、「数と計算」「量と測定」「数量関係」領域において全国を上回っており、「図形」領域において、全国と3%の差となっている。

【小学校 理科】

正答数階層別分布状況



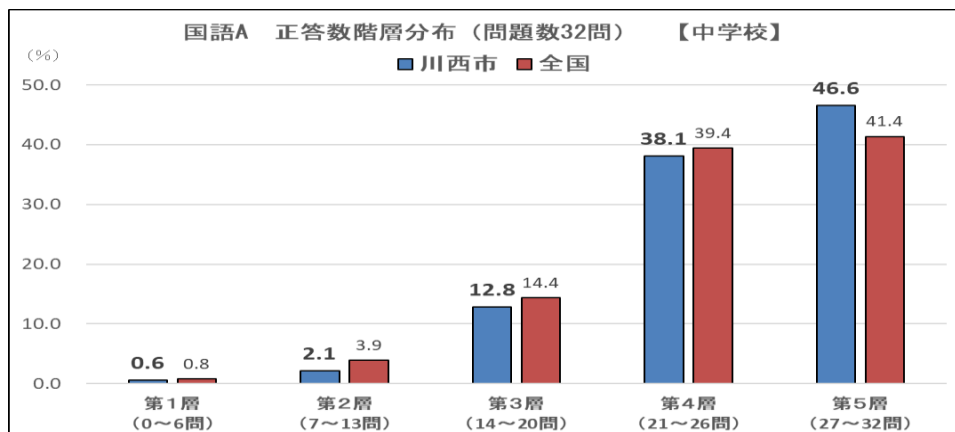
学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		物質 (4問)	エネルギー (4問)	生命 (4問)	地球 (6問)
平均正答率 (%)	川西市	58	52	72	49
	全国	60	53	74	50
	全国との差	-2	-1	-2	-1

- ・正答数階層分布では、全国と比較して第2層がやや多いが、第3、4層が学力を支える傾向となっている。
- ・学習指導要領の区分では、「物質」「生命」領域において、全国と比較して2%の差となっている。

【中学校 国語 A】

正答数階層別分布状況

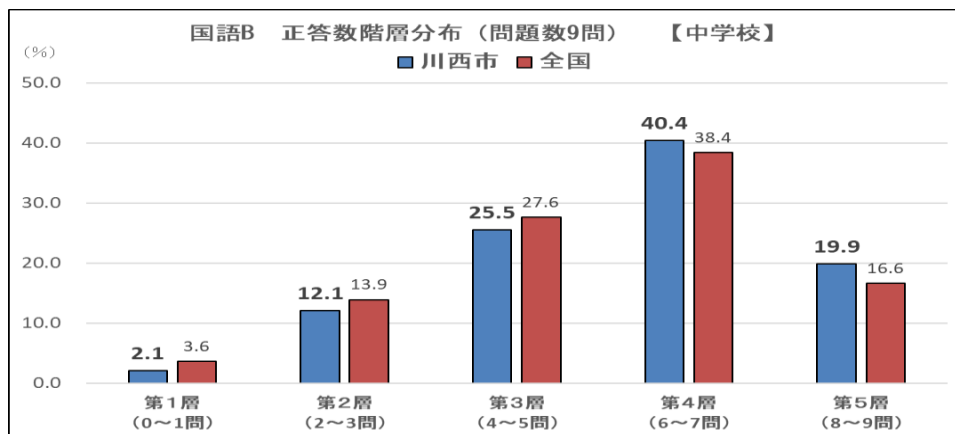


学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		話すこと・聞くこと (3問)	書くこと (4問)	読むこと (4問)	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (21問)
平均正答率 (%)	川西市	77	77	80	78
	全国	75	74	77	77
	全国との差	+2	+3	+3	+1

【中学校 国語 B】

正答数階層別分布状況



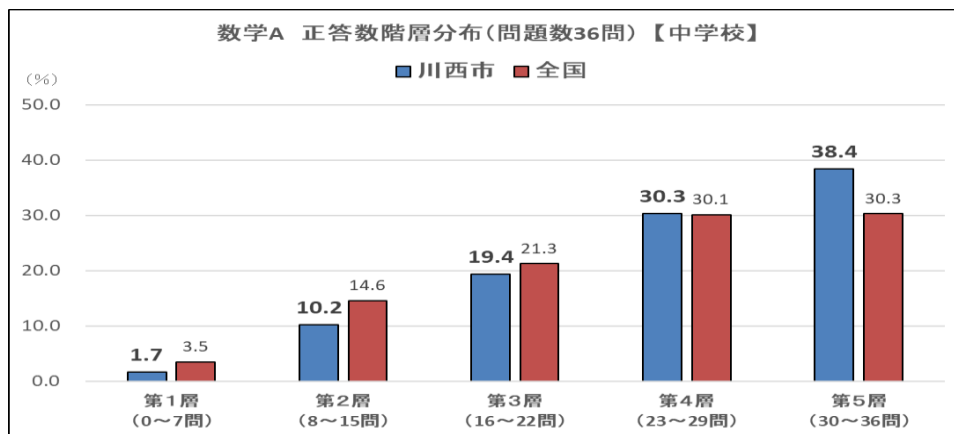
学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		話すこと・聞くこと (3問)	書くこと (2問)	読むこと (6問)	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1問)
平均正答率 (%)	川西市	79	34	57	51
	全国	77	31	54	49
	全国との差	+2	+3	+3	+2

- ・ 正答数階層分布では、全国と比較して下位層が少なく、上位層が多くなっている。
- ・ 領域別ではすべて全国を上回っており、「書くこと」「読むこと」においては、3%の差となっている。

【中学校 数学A】

正答数階層別分布状況

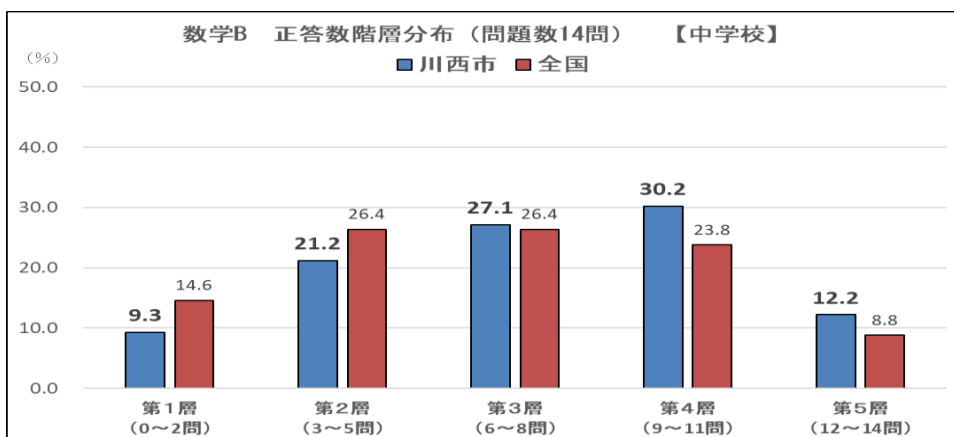


学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		数と式 (12問)	図形 (12問)	関数 (8問)	資料の活用 (4問)
平均正答率 (%)	川西市	76	73	62	71
	全国	71	69	56	64
	全国との差	+5	+4	+6	+7

【中学校 数学B】

正答数階層別分布状況



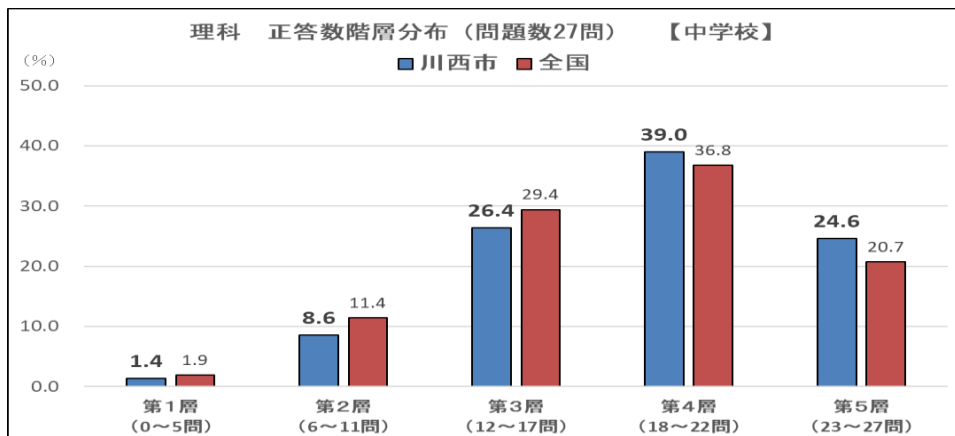
学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		数と式 (4問)	図形 (3問)	関数 (3問)	資料の活用 (4問)
平均正答率 (%)	川西市	57	56	58	44
	全国	51	47	53	38
	全国との差	+6	+9	+5	+6

- ・ 正答数階層分布では、全国と比較して下位層少なく、上位層が多くなっている。
- ・ 領域では、すべて全国を上回っており、「数と式」「関数」「資料の活用」においては、5%以上の差となっている。

【中学校 理科】

正答数階層別分布状況



学習指導要領の領域別平均正答率

		学習指導要領の領域			
		物理的領域 (7問)	化学的領域 (8問)	生物的領域 (6問)	地学的領域 (7問)
平均正答率 (%)	川西市	77	68	74	60
	全国	74	65	73	58
	全国との差	+3	+3	+1	+2

- ・ 正答数階層分布では、全国と比較して下位層が少なく、上位層が多くなっている。
- ・ 学習指導要領の分野では、「物理的領域」「化学的領域」において3%の差となっている。

◇…よく理解がみられたもの ◆…課題がみられたもの

※参考として、問題の一部を掲載しています。


国語 (小学校)

◇【A3】 目的に応じて必要な情報を捉える (読むこと)

◆【A8】 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

漢字の学習に当たっては、日常生活の中で、適切に文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けることが、重要である。読み方や字形を意識して繰り返し練習することにあわせ、本設問で取り上げられたように、同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや、文脈の中での使い分けに着目できるようにすることも大切である。

<p>オ</p> <p>3 2 1 せき 大会でよい成せきを残す。 せき 任の重い仕事をしする。</p>	<p>ウ</p> <p>3 2 1 運 運動会で赤組がかつ。 ノ ートの文字をけす。 細 かい説明をはぶく。</p>	<p>ア</p> <p>3 2 1 選 選具箱の中をせい理する。 新 せい品の価格を調べる。 せ せい限時間に気をつける。</p>	<p>(聞い)</p> <p>「フートの一部」のアからオの部は、どのような漢字を使って書きますか。部は、どのよう漢字を使って書きますか。部と同じ漢字を部に使って書く文として最も適切なものを、次の1から3までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。</p>	<p>【ノートの一部】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おかし店の見学に行って分かったこと</p> <p><input type="checkbox"/> 調理場には、生地を練る機械など、せい邊に必要な せつ備がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 衛生を保つために、調理器具などを一日に何度もしょう毒する。</p> <p><input type="checkbox"/> お客さんにおいしいおかしを食べてもらうために、品質をしっかりと かん理している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地元の野菜や果物などを使った新しいおかしを せつ種的に開発している。</p> </div>	<p>8</p> <p>矢野さんは、見学したことをノートにまとめています。次の「ノートの一部」をよく読んで、あとの(聞い)に答えましょう。</p>
	<p>エ</p> <p>3 2 1 ビ ーカーと試験かんを水で洗う。 近 くの警察かんに道をたずねる。 かん 成した作品を先生に見せる。</p>	<p>イ</p> <p>3 2 1 速 速くへボールをなげる。 劇 のやくの希望を聞く。 新 しい規則をもうける。</p>			

◆【B3 二】 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらよむ

(書くこと、読むこと)

目的に応じて文書の内容を的確に押さえるためには、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのか、という目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読むことが大切である。また、自分の考えを明確にするためには、必要な叙述を選び、他の部分に書かれている叙述と比べたり、自分の知識や経験、考えなどと関連付けたりしながら自分の考えをまとめていくことが必要である。

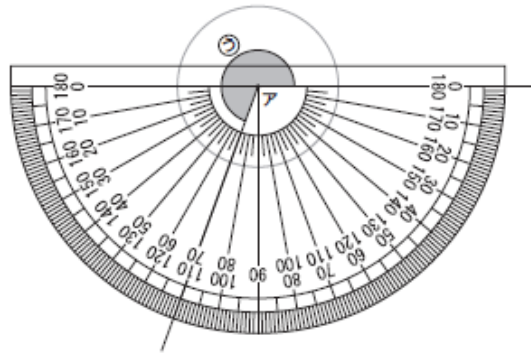
算数 (小学校)

◇【A4 (1)】 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの込み具合の比べ方を理解している (量と測定)

◆【A5 (2)】 180° や 360° を基に分度器を使って、180° よりも大きい角の大きさを求める (量と測定)

180° よりも大きい角の大きさの測定においては、180° を超えた部分の角の大きさや 360° に足りない部分の角の大きさについて測定できるようにすることが大切である。本設問のように、250° は180° よりも大きいことを捉え、180° を超えた部分の大きさや360° に足りない部分の角の大きさについて、一直角(90°)の大きさを基に見当をつけることができるようにすることが必要である。

角②の角度は何度ですか。答えを書きましょう。



◆【B1(2)】 図形の構成要素や性質を基に、1つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを言葉や式を用いて記述する（量と測定）（図形）

図形の学習では、図形についての実感的な理解を深めたり、図形の特徴を日常生活に生かしたりできることが重要である。本設問のように、敷き詰められた図形の1つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になることを、正三角形や正六角形の1つの角の大きさであることや、角がいくつ集まっているかを考えるなど、式と図を関連付けて説明することができるようにすることも大切である。

理科（小学校）

◇【2(1)】 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している（地球）

◆【4(4)】 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述する（物質）

結論を導き出すためには、観察、実験で得られた結果を事実として、それを根拠に言えることだけに言及することが大切である。本設問では、「水にとけた物は蒸発しない」というまとめに対して、食塩のみで得られた実験結果であることから、食塩が蒸発しないことだけの言及にとどめた内容で、記述することが適切である。

【問題】 食塩水の食塩は、蒸発するのだろうか。



食塩は蒸発しないから、1gちょうど出てくると思うよ。

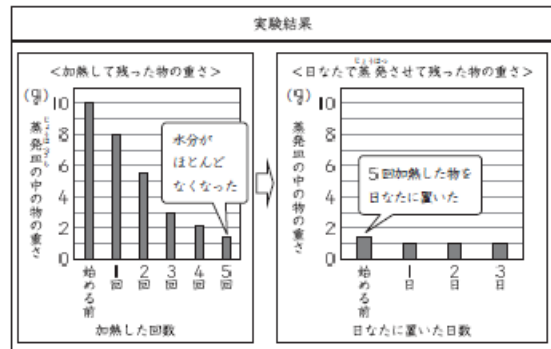
ゆかりさん



食塩も蒸発するから、1gより少なくなると思うよ。

まもるさん

実験方法		
1gの食塩に水を加えて10gにした食塩水すべてを蒸発皿に入れる。	実験用ガスコンロで1分間加熱し、冷ましてから重さをはかる。水分がほとんどなくなるまで、くり返す。	日なたに置いて蒸発させ、1日ごとに重さをはかる。



ゆかりさんは、実験の結果からいえることを、下のようにならまとめました。

【実験の結果からいえること】 水にとけた物は蒸発しない。

この実験の結果から今までいっているのかな？



まもるさん

(4) ゆかりさんが【実験の結果からいえること】としてまとめた内容は、

【問題】 に対するまとめとしてふさわしくありません。

ふさわしいまとめになるように書き直しましょう。

国語（中学校）

◇【A3 二】【B3 一】 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する
(読むこと)

◆【B1 (三)】 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く (書くこと) (読むこと)

目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解することが重要である。また、図表などが示されている文章を読む際は、文章と図表などとの関連を捉えたり、書き手の意図やその効果について考えたりすることも大切である。

数学（中学校）

◇【A2 (3)】 文字式に数を代入して式の値を求めることができる (数と式)

◆【B1 (3)】 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる (関数)

不確定な事象の起こりやすさについて判断し、その理由を説明できるようにするために、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、確率を用いて的確に説明する場面を設定することが考えられる。本設問では、(A)『「全校の回答用紙 90 枚のくじから F が選ばれる確率 $3/10$ 」と「1 年生の回答用紙 50 枚だけのくじから F が選ばれる確率 $2/5$ 」をそれぞれ求めた上で、「2 つの場合の確率を比べると $3/10$ より $2/5$ の方が大きい』ことを根拠にして、(B)「全校の回答用紙 90 枚のくじより、1 年生の回答用紙 50 枚だけのくじの方が選ばれやすい」ことを説明する場面を設定することが考えられる。その際、説明する事柄 (B) とその根拠 (A) を明確に区別し、「(A) であるから、(B) である。」のように説明できるようにすることが大切である。

(3) 二人は、前ページの放送計画とは別の日に、E、F、G、H の中から 1 曲を選んで流すことを考えています。回答した生徒数が多い曲が選ばれやすいように、回答用紙によるくじ引きで選んだ曲を流すことにしました。

回答用紙によるくじ引きの方法

E、F、G、H が書かれたすべての回答用紙をくじにして、そのくじの中から 1 枚を引く。

そこで、アンケートの結果 1 の E、F、G、H と回答したものについて、下のようにまとめ直しました。

アンケートの結果 2

曲	回答した生徒数(人)			
	1 年生	2 年生	3 年生	全校
E	16	8	5	29
F	20	4	3	27
G	8	7	6	21
H	6	5	2	13
合計	50	24	16	90

二人は、アンケートの結果 2 をもとに話し合っています。

拓真さん「回答用紙によるくじ引きなら、回答した生徒数が少ない曲よりも多い曲の方が選ばれやすいね。」
菜月さん「1 年生では F が一番人気だから、もし F が選ばれたら 1 年生は喜ぶよね。」
拓真さん「それなら、1 年生の回答用紙だけをくじにすると、F が選ばれやすいのではないかな。」

前ページの回答用紙によるくじ引きの方法で、E、F、G、H と書かれた全校の回答用紙 90 枚をくじにする場合よりも、1 年生の回答用紙 50 枚だけをくじにする場合の方が、F が選ばれやすいことがわかります。その理由を、確率を使って説明しなさい。ただし、どちらの場合でも、どのくじを引くことも同様に確からしいものとします。

理科（中学校）

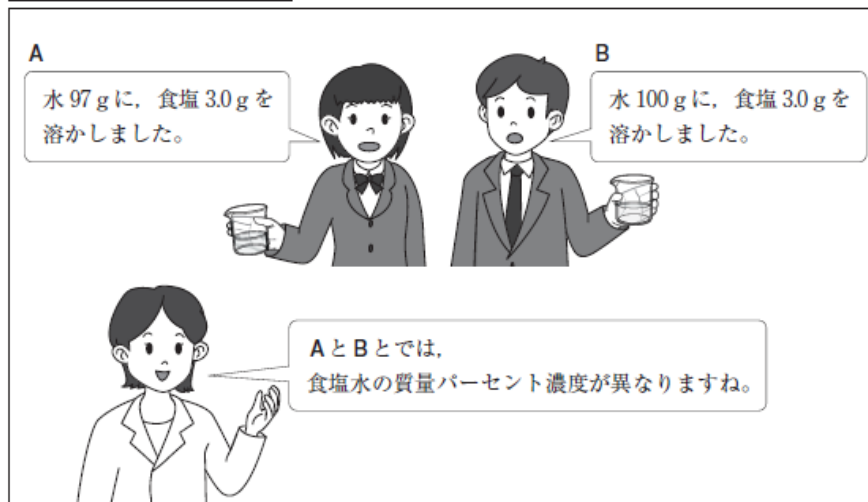
◇【6 (2)】 実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる (物理的領域)

◆【2 (2)】 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる
(化学的領域)

平成 27 年度調査においても課題がみられた項目である。指導に当たっては、本問題のように、特定の質量パーセント濃度の水溶液が必要な状況で、水溶液の質量から溶質と溶媒の質量を計算し、実際につくる学習場面を設定するといったことが考えられる。その際、つくった水溶液が特定の質量パーセント濃度であるか、溶液と溶媒と質量の関係に注意しながら確認することが大切である。

また、溶質と溶媒の割合の関係を視覚的に捉えることができるようにするために、例えば、小学校の算数科の学習で使われている線分図を利用することも効果的である。

3%の食塩水をつくる場面



- (2) 食塩水の質量パーセント濃度が低いものを、上の A、B の中から 1 つ選びなさい。
また、食塩水の質量パーセント濃度が 3.0 % のものを、上の A、B の中から 1 つ選びなさい。

Ⅲ. 平成 27 年度と平成 30 年度（同一児童生徒）調査結果の追跡

教科の平均正答率の比較による追跡

【平成 27 年度小学校 6 年生】

H27小学校	平均正答率（％）		
	川西市	全国	全国との差
国語A	70.8	70.0	0.8
国語B	65.1	65.4	-0.3
算数A	76.5	75.2	1.3
算数B	47.0	45.0	2.0
理科	60.3	60.8	-0.5

【平成 30 年度中学校 3 年生】

H30中学校	平均正答率（％）		
	川西市	全国	全国との差
国語A	78	76.1	1.9
国語B	64	61.2	2.8
数学A	71	66.1	4.9
数学B	53	46.9	6.1
理科	69	66.1	2.9

*文部科学省では、平成 29 年度以降、各市町の平均正答率については、整数値で公表している。

【川西市と全国との平均正答率の差の変化（H27 年度小学校 6 年生と H30 年度中学校 3 年生）】

同一児童生徒である平成 27 年度小学校 6 年生と平成 30 年度中学校 3 年生の川西市と全国との平均正答率の差を比較してみる。

国語A：平成 27 年度小学校 6 年生、川西市と全国の平均正答率の差が 0.8%から、平成 30 年度中学校 3 年生 1.9%と上昇している。

国語B：平成 27 年度小学校 6 年生、川西市と全国の平均正答率の差が-0.3%から、平成 30 年度中学校 3 年生 2.8%と上昇している。

算数A/数学A：平成 27 年度小学校 6 年生、川西市と全国の平均正答率の差が 1.3%から、平成 30 年度中学校 3 年生 4.9%と上昇している。

算数B/数学B：平成 27 年度小学校 6 年生、川西市と全国の平均正答率の差が 2.0%から、平成 30 年度中学校 3 年生 6.1%と上昇している。

理科：平成 27 年度小学校 6 年生、川西市と全国の平均正答率の差が-0.5%から、平成 30 年度中学校 3 年生 2.9%と上昇している。

以上のことから、一定の向上がみうけられ、小学校での取り組みをうまく引き継ぎ、中学校の成果に結びつける体制ができている。

IV. 平成30年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査結果

市教育委員会では、児童生徒質問紙調査を活用し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活習慣の諸側面等に関する項目から、学力との関係性が伺える項目を焦点化し、経年比較を行ってきた。

そうした中、文部科学省において、全国学力・学習状況調査の今後の在り方の検討が行われ、毎年経年変化を見るものと、一定のサイクルで見ていくものを整理・統合することを目的に、児童生徒質問紙調査の分量を、例年より3割程度削減した内容で、今年度実施した。

しかし、本市の児童生徒の実態から、今年度取り上げられていない質問項目についても、

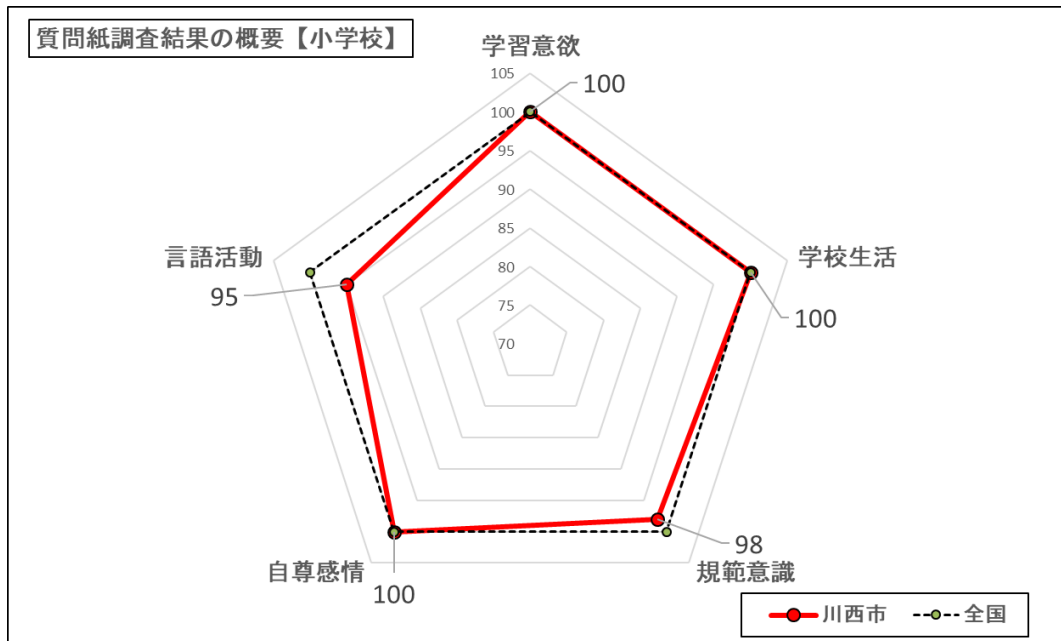
- ①引き続き児童生徒の変容を追うこと
- ②今後、一定のサイクルで質問紙調査に掲載されることが予想されることから、「該当なし」と表現し残している。

なお、川西市・全国の数値は「肯定群」である。「肯定群」とは、選択肢の「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」、「している・どちらかといえばしている」など、肯定的な項目を選択している場合を表している。

(1) 学習環境、学校生活等に関する平成 30 年度質問紙調査結果概要

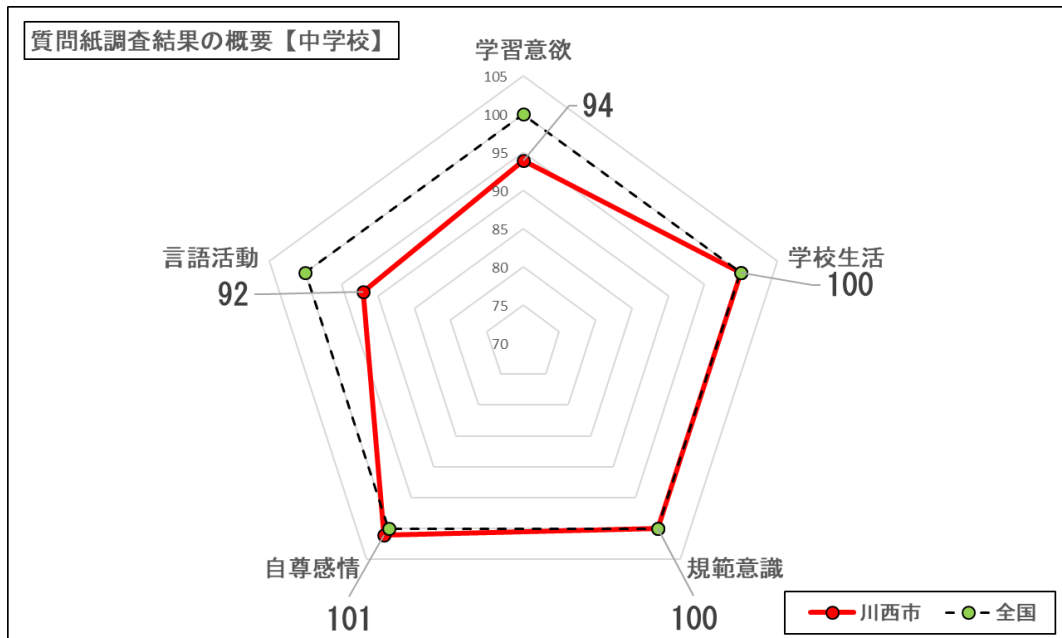
※グラフの数値は、該当する設問項目の肯定的回答割合の合計を平均し、全国の平均値を 100 とした場合の川西市の平均値を示している

【小学校】



「学習意欲」「学校生活」については一定の水準にあり、小学校段階において「知りたい」「分かりたい」という学習に取り組む意欲や子どもと教員との良好な関係が保たれていることが分かる。また、「自尊感情」においても、健全な成長過程をたどっていることが分かる。

【中学校】



「規範意識」や「学校生活」においては一定の水準にあり、中学校で取り組まれている「安心感」のある学校づくりが大切にされ、学習環境の安定の要因になっている。また「自尊感情」についても、小学校から中学校にうまく引き継がれ、昨年度と比較しても向上してきている。

「言語活動」は、小、中学校ともやや低くなっている。新学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」をもとにした言語活動の充実に向けた取り組みの加速化が求められる。

児童質問紙評価項目一覧

22問

単位 (%)

小学校	質問事項	川西市肯定群 (H30年度)	川西市肯定群 (H29年度)
学習意欲 (4)	国語の勉強は大切だと思いますか	本年度該当なし	91.0
	国語の授業の内容はよく分かりますか	本年度該当なし	81.1
	算数の勉強は大切だと思いますか	91.6	91.7
	算数の授業の内容はよく分かりますか	83.6	80.9
言語活動 (5)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	本年度該当なし	94.7
	5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	本年度該当なし	84.2
	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか	74.9	74.9
	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	55.6	59.1
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	75.0	64.0
学校生活 (5)	学校に行くのは楽しいと思いますか	本年度該当なし	88.4
	学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか	本年度該当なし	96.7
	学校で、好きな授業がありますか	本年度該当なし	92.3
	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	本年度該当なし	86.9
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	84.6	83.0
規範意識 (4)	学校のきまりを守っていますか	86.6	89.8
	友達との約束を守っていますか	本年度該当なし	96.6
	人が困っているときは、進んで助けていますか	本年度該当なし	84.4
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.0	96.1
自尊感情 (4)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	本年度該当なし	95.7
	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	本年度該当なし	77.7
	自分には、よいところがあると思いますか	84.3	80.1
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.2	93.4

生徒質問紙評価項目一覧

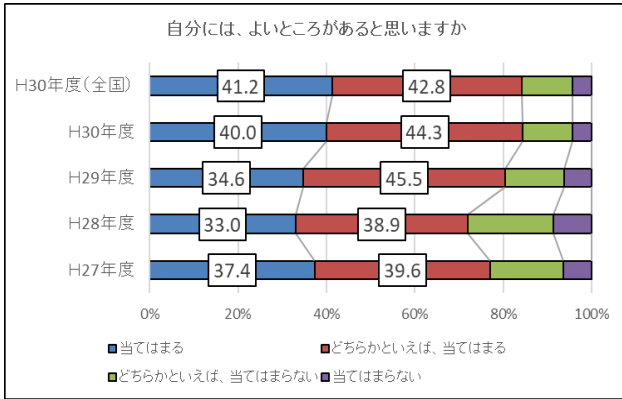
22問

単位 (%)

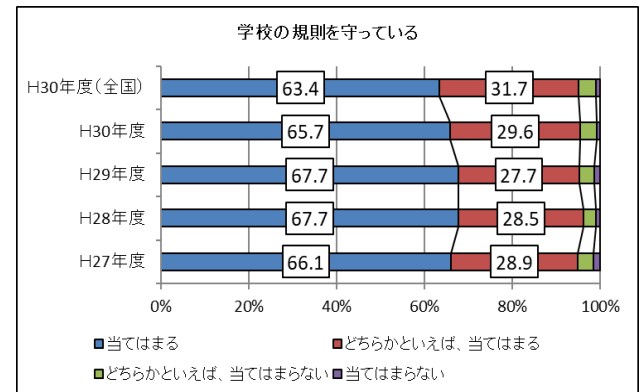
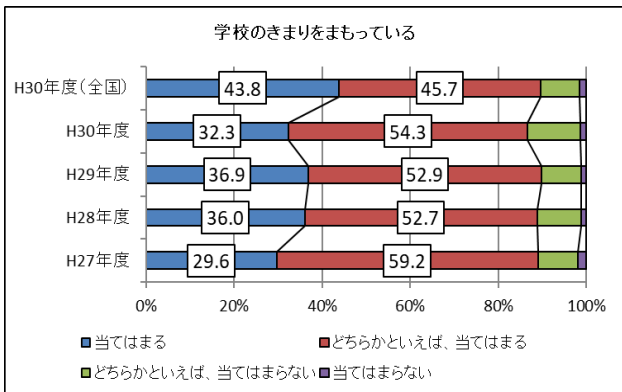
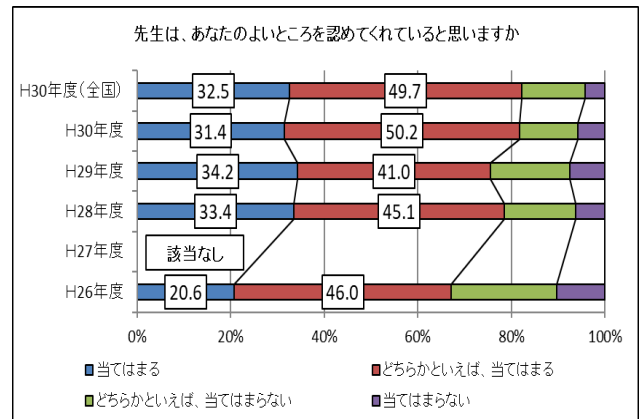
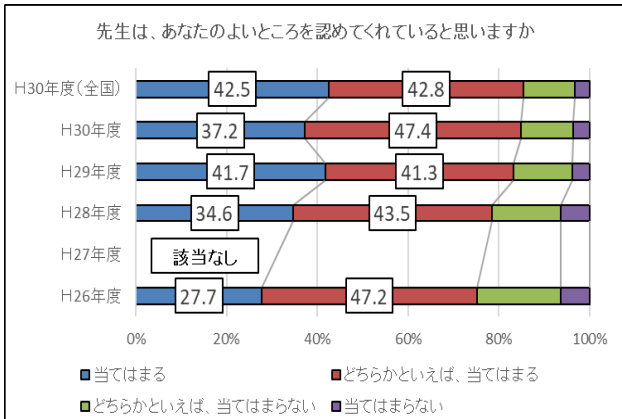
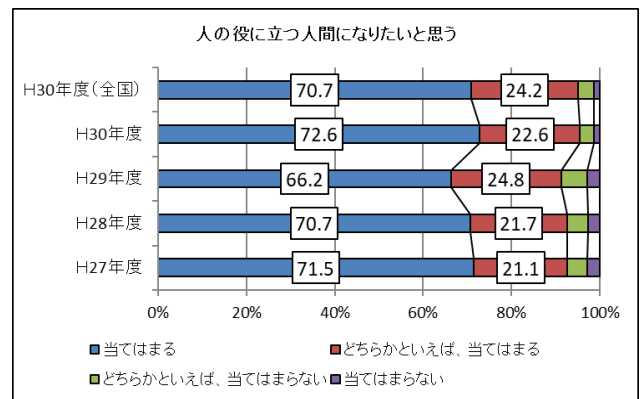
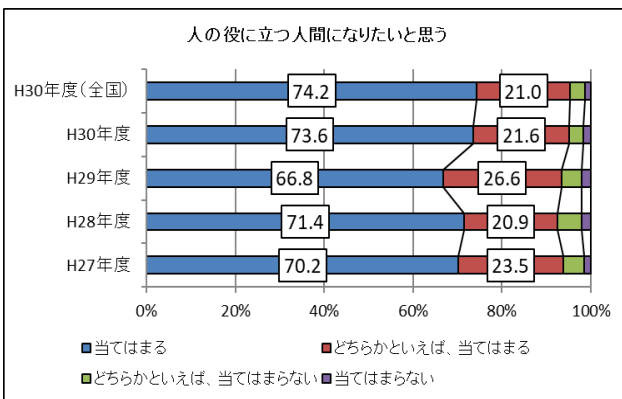
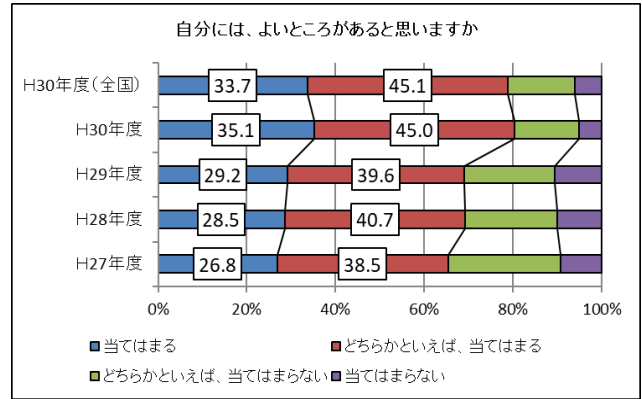
中学校	質問事項	肯定的割合 (H30年度)	肯定的割合 (H29年度)
学習意欲 (4)	国語の勉強は大切だと思いますか	本年度該当なし	83.2
	国語の授業の内容はよく分かりますか	本年度該当なし	72.6
	数学の勉強は大切だと思いますか	76.2	76.6
	数学の授業の内容はよく分かりますか	69.4	70.1
言語活動 (5)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	本年度該当なし	93.0
	1、2年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	本年度該当なし	80.3
	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか	69.8	73.7
	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	46.0	50.8
	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	71.2	59.1
学校生活 (5)	学校に行くのは楽しいと思いますか	本年度該当なし	77.9
	学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか	本年度該当なし	94.9
	学校で、好きな授業がありますか	本年度該当なし	74.3
	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	本年度該当なし	85.8
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	81.6	75.2
規範意識 (4)	学校の規則を守っていますか	95.3	95.4
	友達との約束を守っていますか	本年度該当なし	97.8
	人が困っているときは、進んで助けていますか	本年度該当なし	83.4
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	94.4	93.2
自尊感情 (4)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	本年度該当なし	95.0
	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	本年度該当なし	69.9
	自分には、よいところがあると思いますか	80.1	68.8
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.2	91.0

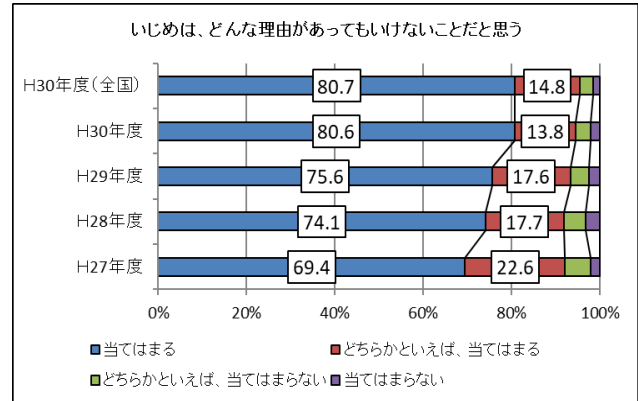
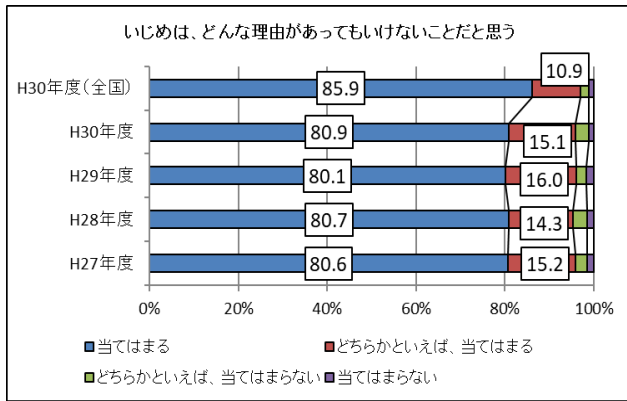
自尊感情、自己有用感、規範意識について

【小学校】



【中学校】





質問紙調査の経年比較を行う中で、児童生徒の自尊感情や学校生活を支える大きな要因である教師と児童生徒の関係性と学力との間には、相関的な関係性があると考えている。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という教師と児童生徒のつながりに関する項目において、今年度、肯定群は、小学校 84.6%、中学校 81.6%となっている。質問が設定された平成 26 年度から比較すると、小学校 9.7%、中学 15.0%、肯定群が上昇している。子どもたちのよさやがんばりを積極的に認め励ます教育実践が大切に展開されていることを、数値でも見ることができる。

また、「自分には、よいところがあると思いますか」と自己肯定感に関わる項目においても、年々上昇傾向となっている。認め励まされるという成功体験の積み重ねが、自己肯定感の高まりにもつながりプラスの循環となっていることは、本市の大きな特徴である。

引き続き、教職員の丁寧な関わりが、児童生徒の学校生活の支えになることを学校全体で共有しながら、充実させていくことが大切である。

「学校の決まり/規則を守っている」といった項目も、一定の水準を確保していることも、本市の大きな特徴である。安心・安全な学習環境を整えることは、子どもたち同士互いに支え合い、励まし合う生活集団の基礎となるとともに、「確かな学力」を育む学習集団への変容にもつながると考えている。

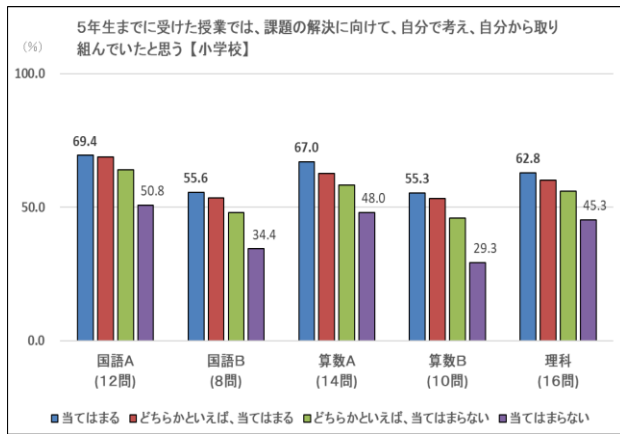
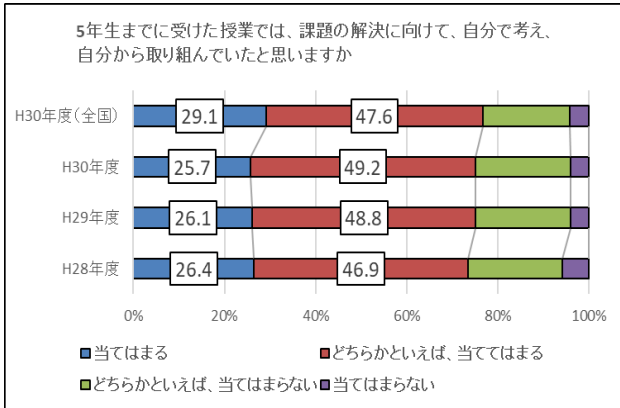
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については、肯定群が多いとはいえ、否定群がみられる。いじめの問題において最も重要なことは、いじめはどの子どもにも起こりうる、どの子どもも被害者にも加害者にもなり得るという事実を踏まえ、全ての児童生徒の尊厳が守られ、児童生徒をいじめに向かわせないための未然防止に取り組むことである。そのためにも、学校の教育活動全体を通し、全ての児童生徒に「いじめは決して許されない」ことへの理解を促し、児童生徒の豊かな情操や道徳心、お互いの人格を尊重し合える態度など心の通う人間関係を構築する能力の素地を養うことが重要である。また、児童生徒自らがいじめの問題について学び、そうした問題を児童生徒自身が主体的に考え、いじめを決して許さないという強い意志と、いじめを解決できる力をもった児童生徒集団の育成が重要である。

(● P 30 川西市教育委員会) (● P 31 学校) (● P 31 家庭)

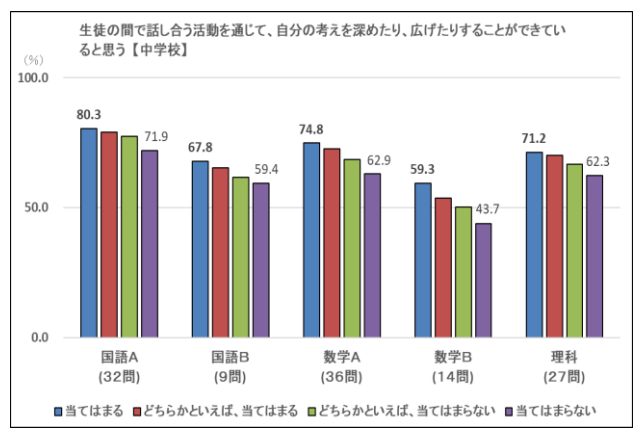
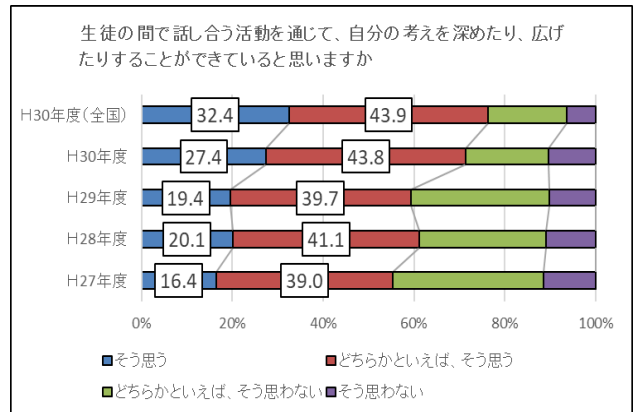
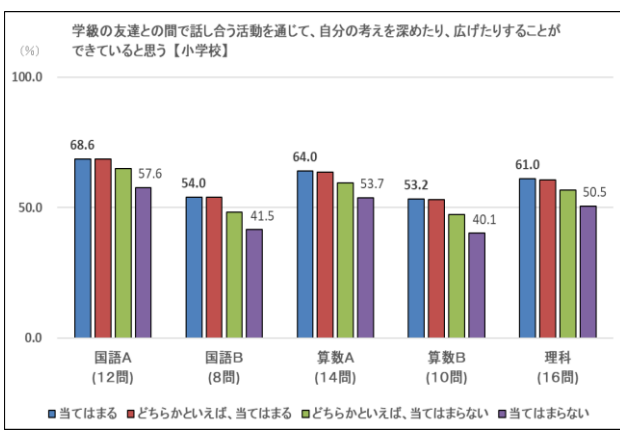
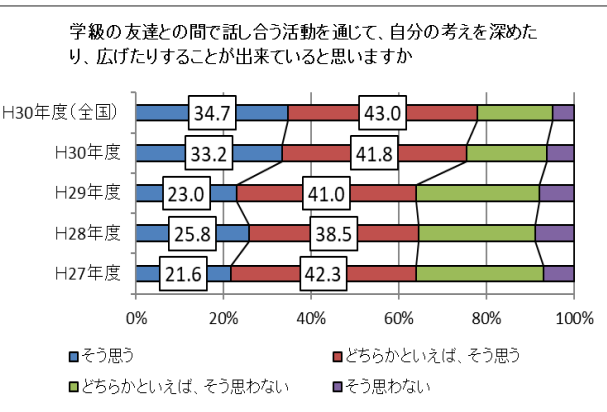
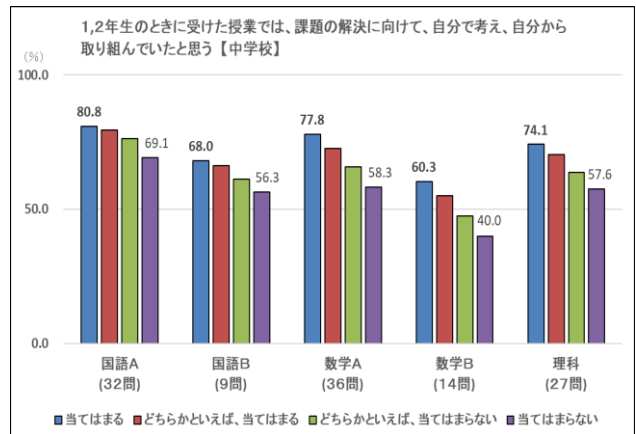
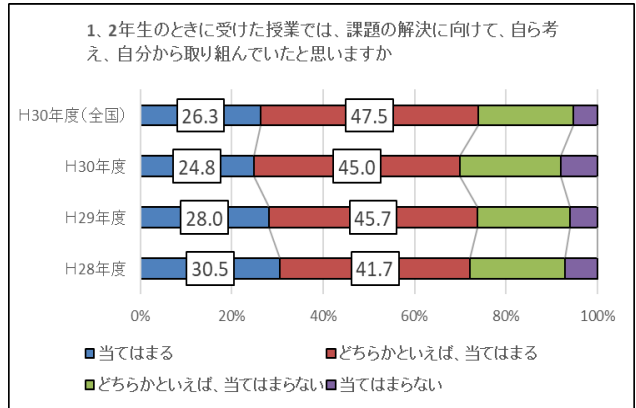
(2) 学習環境や生活習慣等に関する質問紙調査結果経年比較並びに平成30年度質問紙調査結果と学力のクロス分析

1 言語活動の充実（主体的・対話的で深い学びに向けて）に向けて

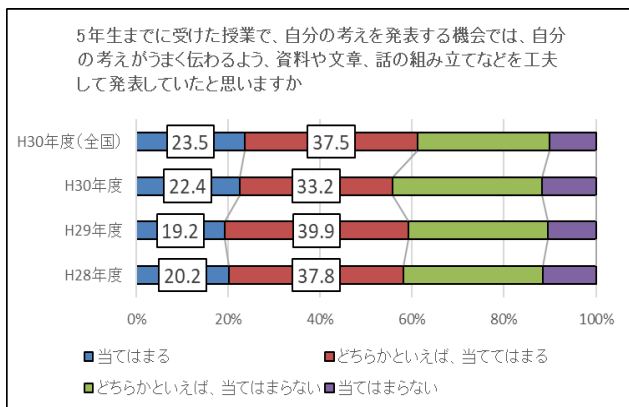
【小学校】



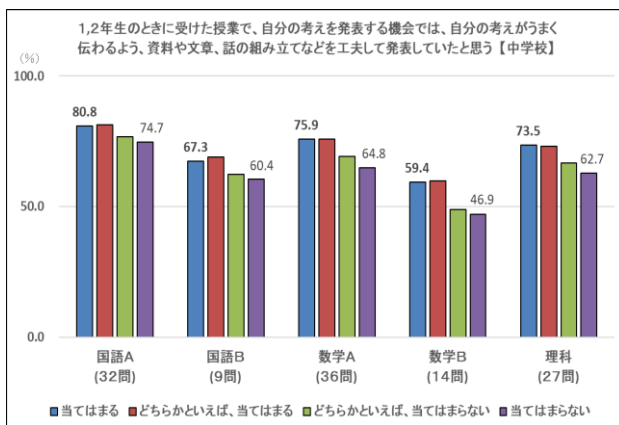
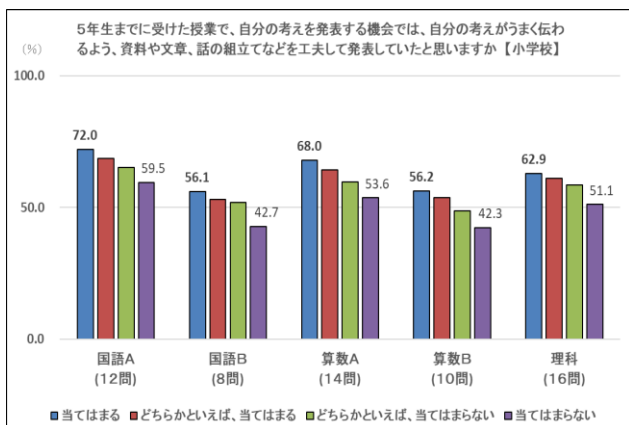
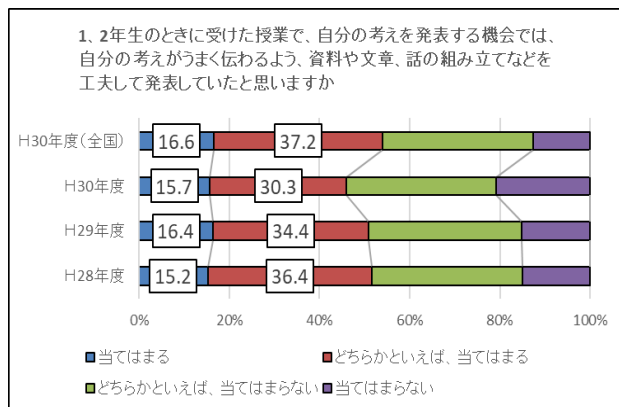
【中学校】



【小学校】



【中学校】



新学習指導要領実施にむけ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められている。

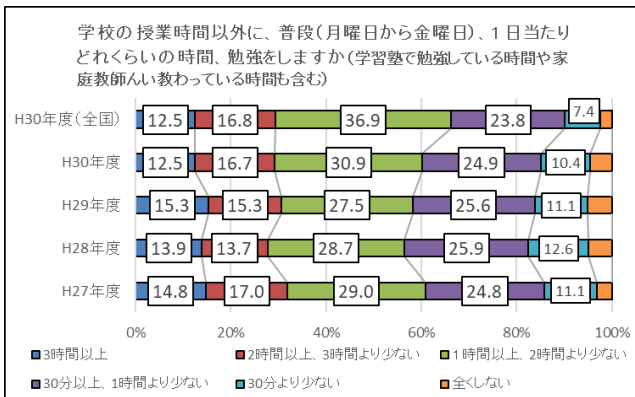
主体的な学びの充実にむけ、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」という質問項目に着目すると、今年度、肯定群は、小学校 74.9%、中学校 69.8%となっている。主体的な学びとは、学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びのことである。「課題は何か」、「何ができないのか」「どうすればいいのか」など学習のめあて・見通しをもたせ、「どういったことが分かったのか、できるようになったのか」を、子ども達自身で振り返りながら「分かる」、「できる」喜びにつながる学習活動を展開していくことが、引き続き重要となる。

対話的な学びの充実にむけては、自分と他者の意見や考えを比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるようにすることが大切である。対話的な学びの手立ての1つである「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」という質問項目に着目すると、今年度、肯定群は、小学校 75.0%、中学校 71.2%となっている。教職員が授業づくりの1つの手立てとして充実させていること、そして、児童生徒が他者との関わりを通じて自らの学びにつながっていることを実感してきていることから、本市の教育活動も今、変わり始めていることが分かる。

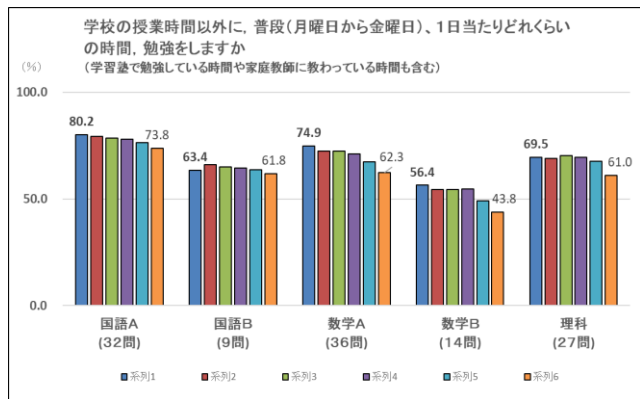
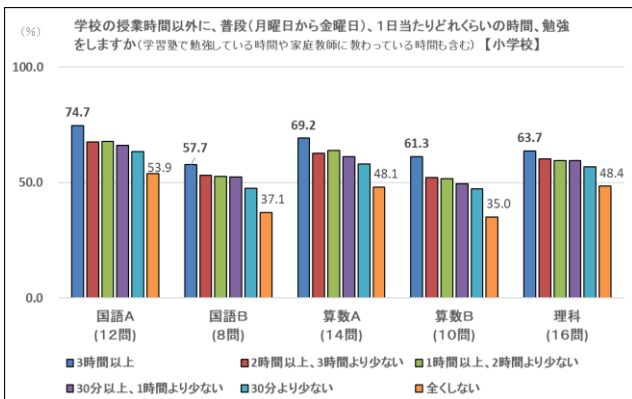
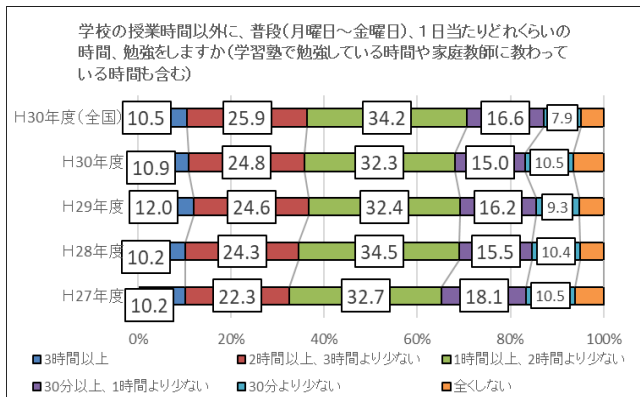
そうした中で、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立て方を工夫する」については、児童生徒にとって「できている」「している」という十分な実感につながっていないことが伺える。上記設問には、「話し合い」という言語活動だけでなく、「書く・読む・話す」という言語活動が含まれている。教科全体を通して取り組みの充実を図ることが大切である。

(P30 川西市教育委員会) (P31 学校)

【小学校】



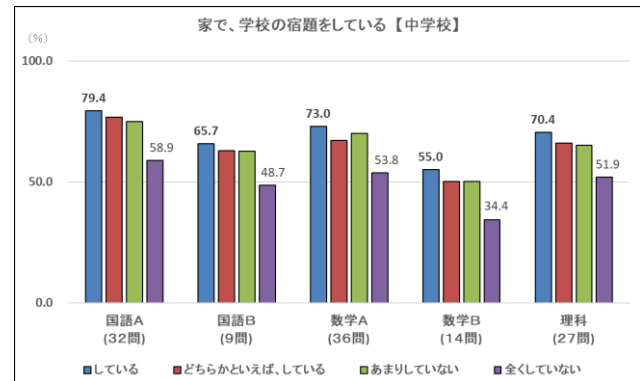
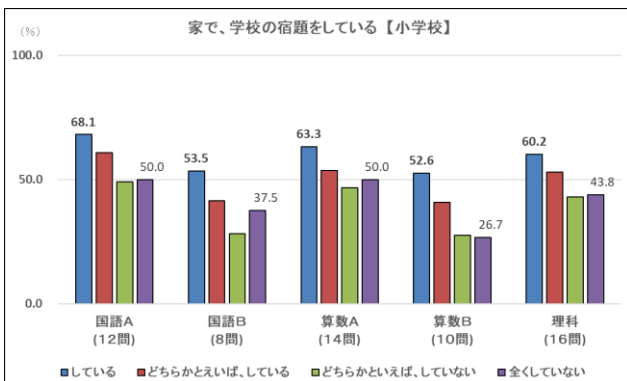
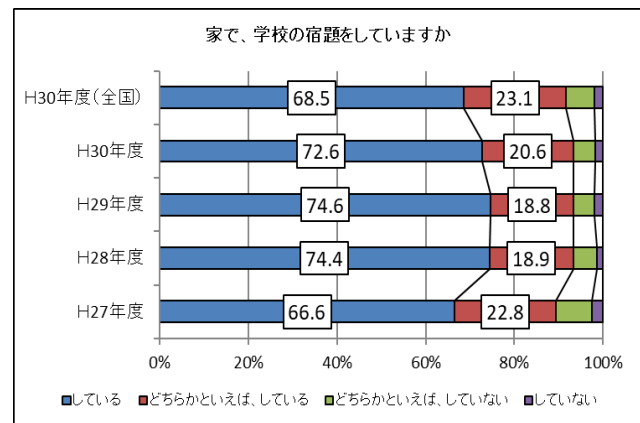
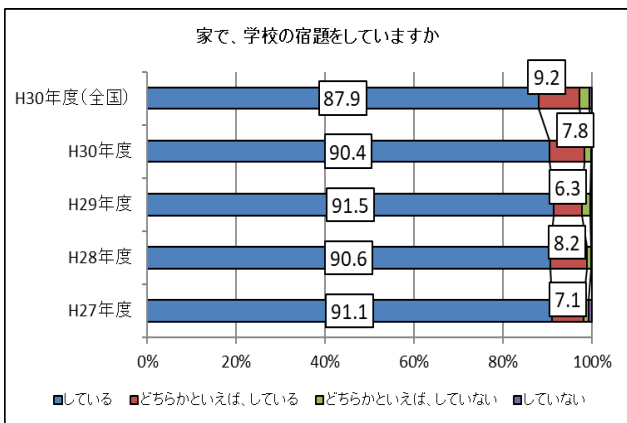
【中学校】

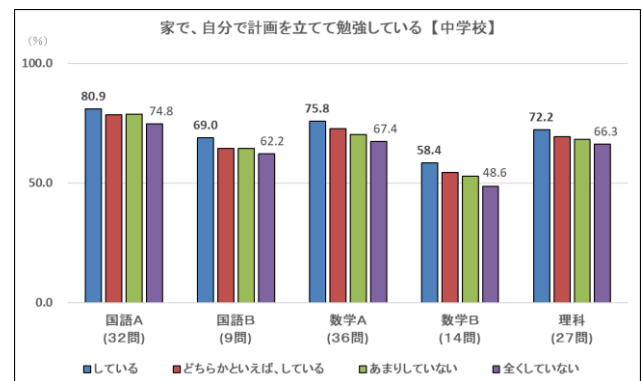
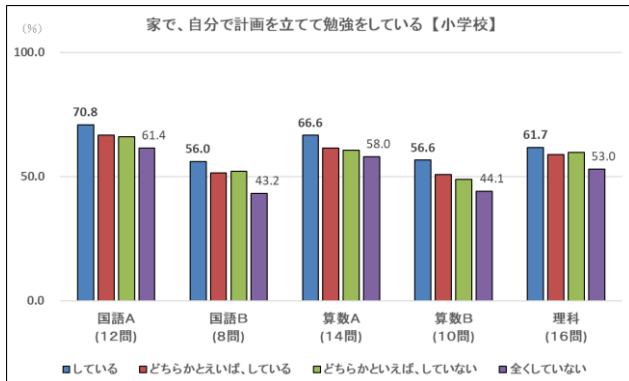
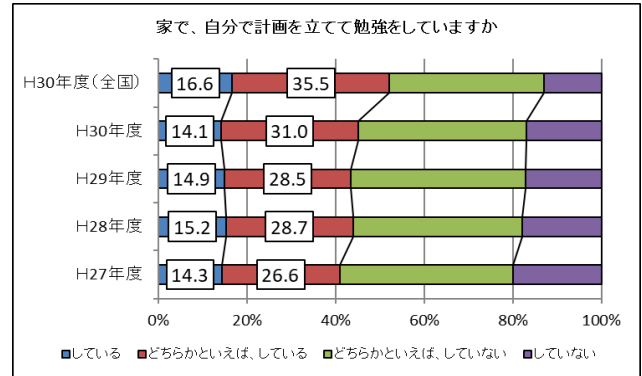
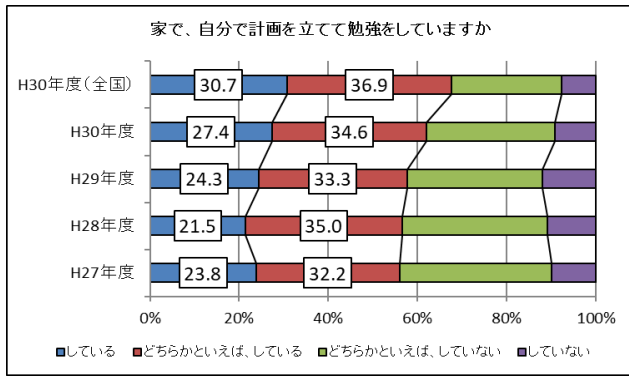


* 「川西市家庭学習ハンドブック」において、15分×「学年」を家庭学習の時間のめやすとしている。

小学校6年生 15分×6＝90分 (1時間以上2時間より少ない)

中学校3年生 15分×9＝135分 (2時間以上3時間より少ない)





「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している」割合は、小学校60.1%、中学校68.0%となっている。

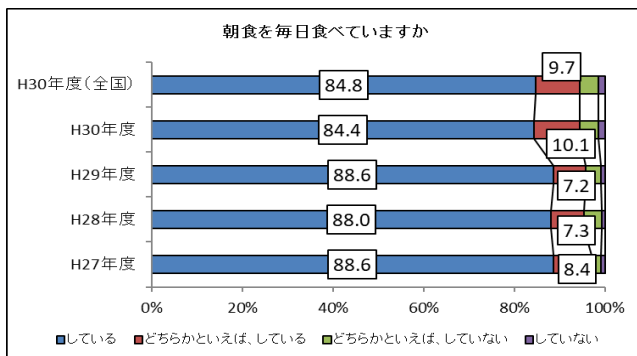
家庭学習における宿題の役割は、①家庭学習の習慣化、②授業内容を振り返って身に付ける及び授業での理解を深めること、である。「学校の宿題をする」という質問項目に対する肯定群は、小学校98.2%（全国比+1.1%）、中学校93.4%（全国比+1.6%）と小中ともに全国平均を上回っており、課題に真面目に取り組む意識は高いまま継続できている。特に小学校の宿題は、学習した内容の定着を図ることや家庭学習の習慣化を目的としている。まずは、宿題にきちんと取り組むことを通して、基本的な学習習慣を身に付けていくことが重要である。

そこから、発達段階に応じて、「宿題に頼る家庭学習」から「自ら学ぶ学習」へと徐々に転換できるようにしていくことが大切である。「自ら学ぶ姿勢」は、これからの生涯にわたる「学び」にとって重要である。「家で、自分で計画を立てて勉強している」という質問項目については、肯定群が、小学校62.0%、中学校45.1%となっている。今後も予想される変化の激しい社会を主体的に生き抜いていく上においても、是非とも身に付けさせたい意識であることから、今後も継続的な取り組みが求められる。

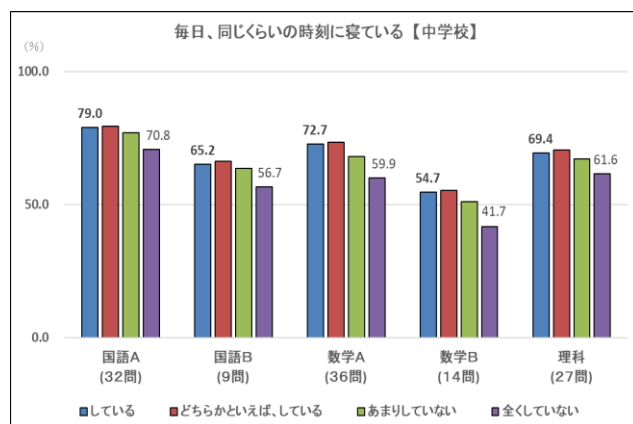
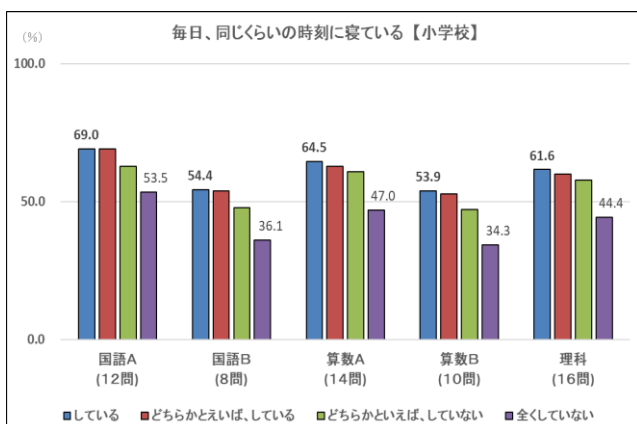
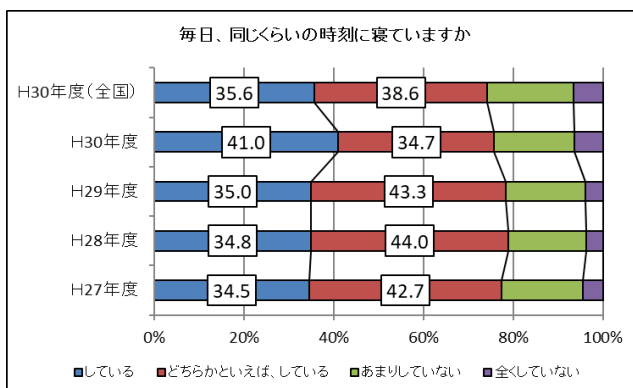
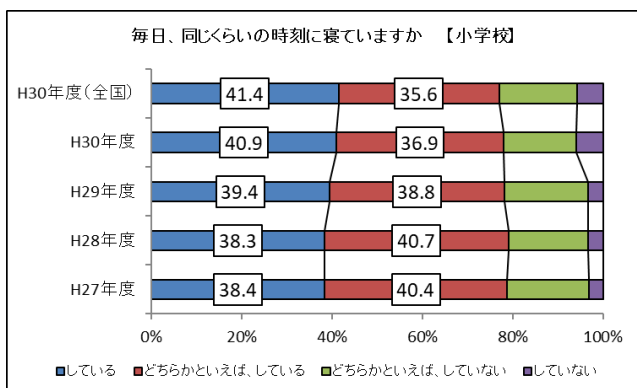
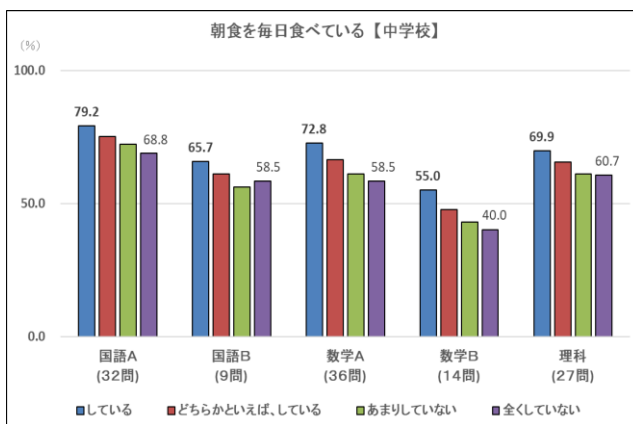
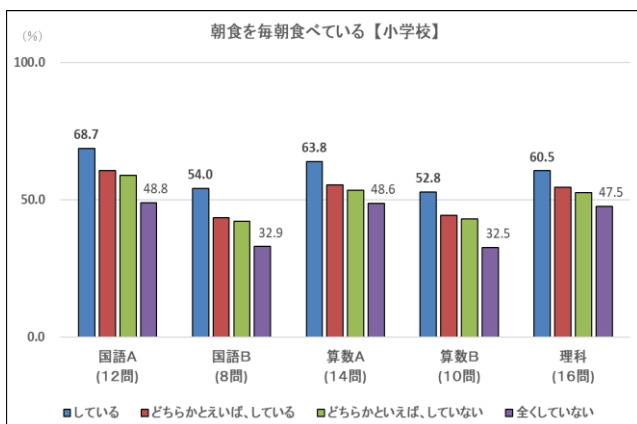
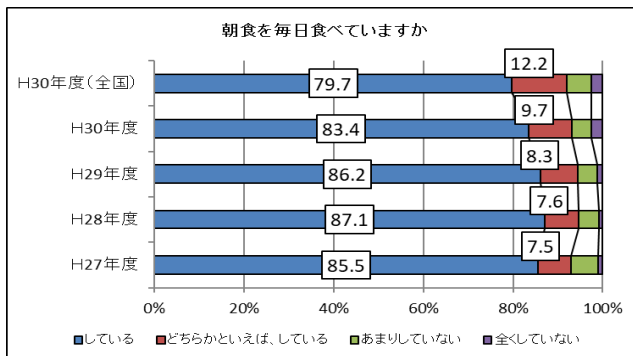
本市では、学校の教育活動と合わせ、放課後学習支援事業「きんたくん学びの道場」（以下「学びの道場」とする）を小学校で実施し「学習する場」の幅も広げている。「学びの道場」なども活用しながら、家庭学習の習慣化や少しずつ自分で学習課題をみつけ計画を立てて学習していく意識付けを行っていくよう、今後も取り組みの充実を図っていくこととする。

（☛P30 川西市教育委員会）（☛P31 学校）（☛P31 家庭）

【小学校】



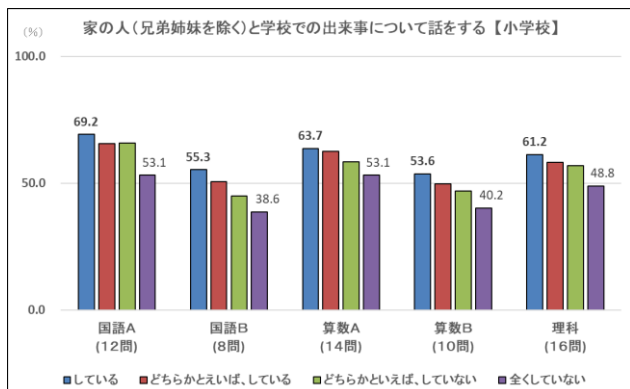
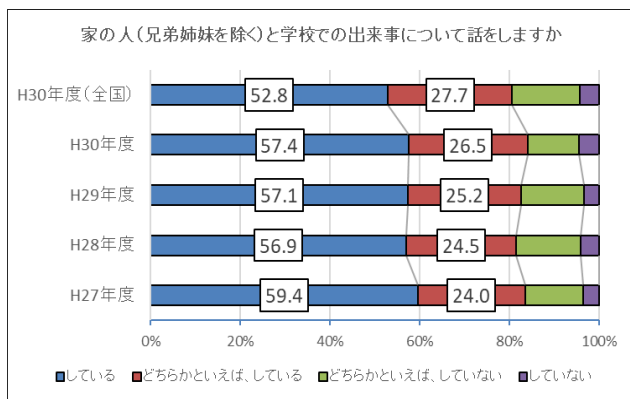
【中学校】



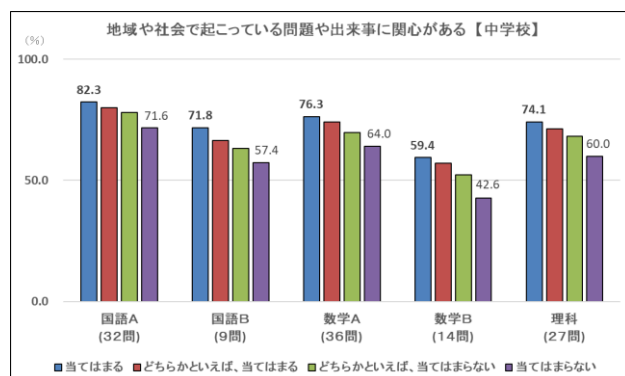
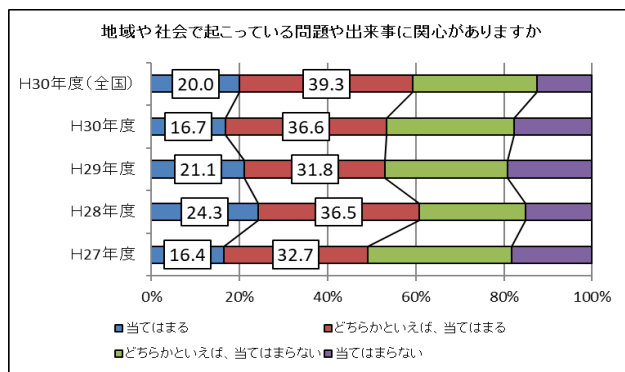
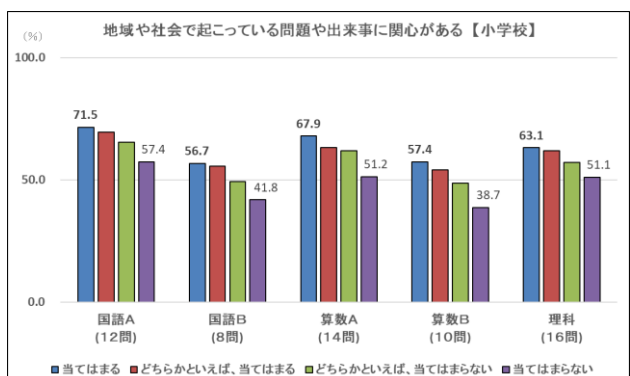
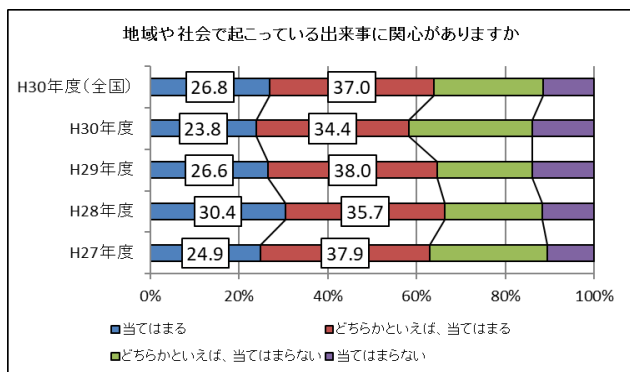
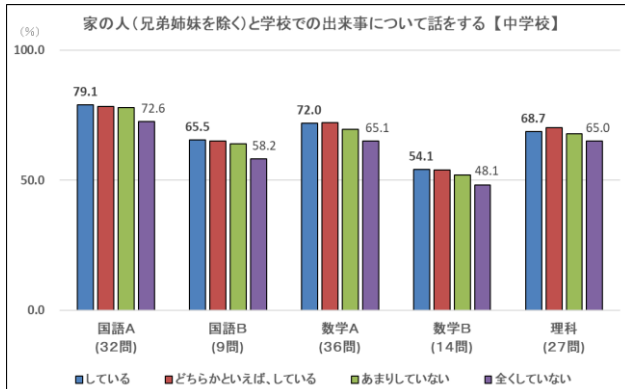
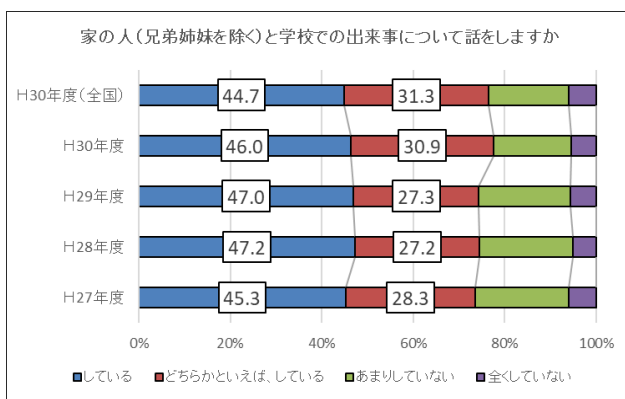
朝食をとっている児童生徒の割合や同じ時刻に寝るようにしている児童生徒の割合は、全国をやや上回る状況となっている。家庭での過ごし方と学力の間には関係があることは、これまでの調査からも伺えることから、継続していくことが大切である。

(P31 家庭)

【小学校】



【中学校】

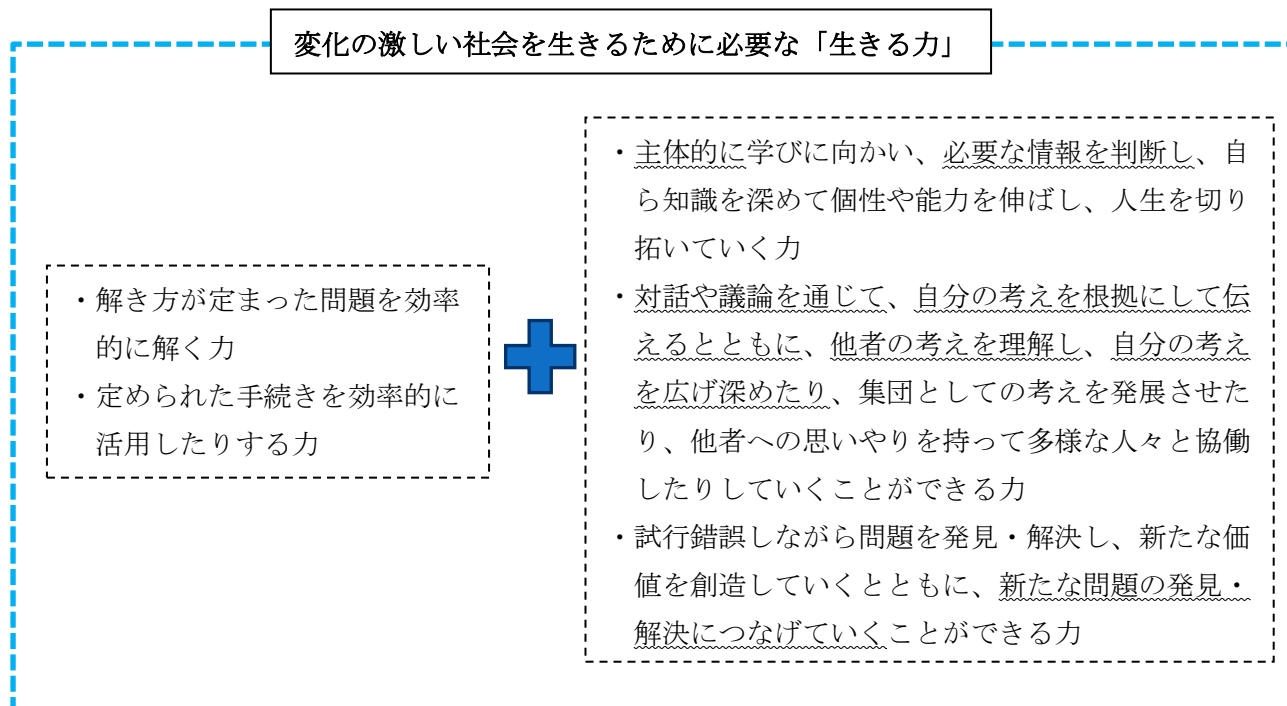


家族とのつながりを肯定的に捉えている児童生徒の割合は、全国より高くなっている。学校生活の出来事などを子ども自身が家で話せるという関係は、子どもにとっても家族のつながりや愛情を感じる機会となり、心の安定にもつながるものとする。学校ホームページや学校だより等を通じた学校生活の情報発信も、大きな効果となっている。

(P31 学校) (P31 家庭) (P31 地域)

V. 全国学力・学習状況調査結果活用の方向性及び今後の取り組みについて

(1) これからの社会を見据え子ども達に育てみたい力



(2) 調査結果から伺える子ども達の現状

- ▶ 情報化の進展に伴い、特に子どもたちにとって言葉を取り巻く環境が変化する中で、一定量の文章に接する機会も変化してきている。そうした中で、テキスト¹から情報を取り出すこと、理解すること、利用すること、それらをもとにして自分の考えを論じることといったことを含む言語活動の充実が求められている
- ▶ 「なぜ、どうして」と問いをもち、課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいたと思うなど、主体的に学びに向かっているという実感ができているかということ

成果

- ① 目的に応じて必要な情報を取り出すこと
 - ・ 目的に応じて、必要な情報をとらえる 【小学校国語A3 読むこと】
 - ・ 示された情報を解釈し条件に合う時間を求めることができる 【小学校算数B2(1) 数と計算、量と測定、数量関係】
 - ・ 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える 【中学校国語A5(二) 読むこと】
 - ・ グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈すること 【中学校数学B3(3) 数と式】

¹ テキストとは、文学的な文章（物語文）、説明文、記録などの文章全般と、図・グラフ・表・写真など、文章以外のデータを視覚的に表現した資料全般をさす。

- ② 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりするという実感の増加
- ・学級の友達との間で／生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う 【質問紙調査】（☛P 18, 19）

課題

- ① 主体的に学びに向かっているという実感の充実
- ・課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う【質問紙調査】（☛P 18, 19）
- ② 判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べること
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する【質問紙調査】（☛P 18, 19）
- ③ 発達の段階に応じた語彙の確実な習得（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
- ・漢字を文の中で正しく使う 【小学校国語A 8】
 - ・文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く【小学校国語A 5】
 - ・目的に応じて、文の成分の順序や照応、構成を考えて適切に文を書く【中学校国語A 8 四 2】
- (3) これからの社会を想定した「学力」の育成にむけた環境づくりについて
- 言語活動を通じて（各教科と学校生活全般）
 - 主体的に学びに向かっているという実感の充実
 - 判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べること
 - 基礎基本を確実に身に付けていくこと
 - 子どもたちが、自らの能力を引き出し、学習したことを活用して、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていけるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点を意識した授業改善への取り組みと自治活動の充実
- こうした力を育み伸ばし、子どもたちの「なぜ」「どうしたい」という問いを基に、「できた」「分かった」「新しい考えを知った」などといった学ぶ喜び体験とともに、そこに至る経過を充実させる学習環境づくりを進めていく。

これからの子どもたちには、「自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手になることができるようにすること」が求められている。

そこで、学校や家庭での教育活動を通じて、子どもたち自身が、「何を学ぶか・何ができるか」という知識・技能を自覚するだけでなく、「なぜ」「どうして」という探究心をもとに、「どのように学ぶか」について考え、判断し、表現しながら主体的に学習に取り組む態度を含めた学び方を身に付けていくことが必要となる。

本調査において国は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。川西市においても今回の調査結果は、川西市の子どもたちのこ

れから必要とされる資質・能力を育むための取り組みを検証するものであり、教育における目的を見失うことなく、わたしたち大人が子どもたちのために環境を整えることが重要であると考えている。

子どもたちが、知的好奇心とともに将来の夢や目標を大きく持ち、それに向かって「学び」を進めていくためにも、学校・家庭・地域が一丸となって育み、支えていくことがとても大切であると考えている。

川西市教育委員会では、学習環境の充実及び子どもの学びを支援します。

➤ **児童生徒のつまずきの解消を重視した指導の充実にむけて**

- *全国学力・学習状況調査をもとに市全体の特徴の検証を行い、児童生徒のがんばりや今後の取り組みの方向性をつかみながら、各学校での学習指導にいかせるよう発信をしていきます。
- *各学校で作成する「学力向上総合プラン」や兵庫県教育委員会作成資料「ひょうごつまずきポイント事例集」等を生かし、学習の系統性を意識した授業づくりの促進を支援します。

➤ **言語活動の充実にむけて**

- *市教育委員会が研究テーマを指定し、テーマにそった研究指定校での実践をもとに、市全体で新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけ取り組みが進められるよう「市指定研究事業」を充実させていきます。
- *学ぶ喜びの充実を図り、学習意欲の向上につながる授業づくりにむけた教職員研修を実施していきます。
- *学校図書館の活性化や読書活動の充実にむけ、各学校に「学校司書」を配置します。

➤ **I C T機器の整備**

- *児童生徒の情報活用能力を育成するため、研究指定校においてタブレットP Cの導入を行い、学習活動における効果的な活用の仕方について、研究を進めていきます。

➤ **外部人材を活用した学びの取り組み**

- *地域人材など多様な人との学びを支援します。
 - ・小学校において、学習支援員を配置した放課後学習支援「きんたくん学びの道場」を実施し、学習内容の定着や家庭学習の支援を行います。
 - ・英語による言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る力を育成することを目指し、小学校は外国語活動の全時間にALT等を配置、中学校はALTの配置時数を段階的に拡充します。

➤ **家庭学習支援**

- *家庭学習の手引き「家庭学習ハンドブック」を小学校入学時に配布し、家庭における学習の取り組み方や効果について啓発を行います。
- *パソコン等を活用した家庭学習支援ツールを整備していきます。

➤ **豊かな心の育成にむけて**

- *他者や自己との対話をもとに道徳的価値についての考えを深めていける道徳科の授業づくりを支援していきます。

- *川西市独自の体験活動「里山体験学習」を実施し、人・自然・地域との学びを支援します。
- *安心、安全な学校環境づくりを進めるため、児童生徒が自ら考え対話する生徒指導の充実を図っていきます。

➤ 校種間の連携の促進にむけて

- *中1ギャップの解消、居場所づくり・絆づくり、学びの連続性に基づく学力向上に向けて、小中連携の充実を図っていきます。
- *小1プロブレムの解消、仲間づくり、主体的な育ちの連続性に基づく就学前教育と小学校の接続カリキュラムの開発を行います。

➤ 開かれた学校づくりにむけて

- *学校現場の課題解決や教育環境の充実など、学校運営に必要な支援について、学校と地域住民が協働して協議を行うため、研究校にて学校運営協議会を設置し、効果的な在り方について、調査・研究を進めていきます。

学校では、児童生徒への教育指導の充実に取り組みます。

- *授業の目標（めあて）を示し見通しを持たせ、児童生徒自ら学びに向かう意欲を醸成させる授業づくりの充実を進めます。
- *判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることや、話し合いなどといった対話を通じ多様な考えにふれ自分の考えを深めること、学習内容を自ら振り返ることができるなどといった学習活動の充実を図ります。
- *「探究する」、「できる、分かる」喜びなど、児童生徒にとって学ぶ楽しさの実感につながる「校内研究」の充実を図ります。
- *学校での学習と家庭学習をつなげる「自主学習」支援を進めます。
- *子どもの豊かな心を育むための「道徳教育」、「体験活動」の充実を図ります。
- *各教科等の特質に応じた「学習タイム」の充実を図ります。
- *主体的に学校生活に関われるよう、児童生徒の自治活動を充実を図ります。
- *安心で安全な環境に向けた学習規律の確立のため、児童生徒の主体的な活動を支援します。

家庭におきましては、子どもたちの豊かな情操を育む基礎的な資質や能力の育成にご協力・ご協力をお願いします。

- *「早寝・早起き」など基本的な生活習慣の確立を図ります。
 - *「家庭学習ハンドブック」等を活用し、自ら学びに向かう力を育みます。
 - *言語活動、豊かな人間関係の礎となる家庭での読書や対話など、家族で一緒に取り組みます。
- など、子どもたちとともに取り組んでいただきますようお願いいたします。子どもとともに考え、対話を深め、子どもたちのやる気を高める主体的な活動は、自立した人間に育つためにも重要な要素です。

地域におきましては、社会全体で子どもたちを育てる環境づくりをお願いします。

- *地域の人材や自然・文化などを活用した「総合的な学習の時間」や「体験学習」の充実に関わります。
- *学校施設等を活用した「放課後こども教室」等、地域全体で子どもたちの学びを支える環境の整備

備を進めます。

*子どもたちの自立支援の推進に向けた「仕事」のやりがいや楽しさを伝える「トライやる・ウィーク」などを核としたキャリア教育の展開に協力します。

*主体的に学校に関わる組織づくりにむけた学校運営協議会を理解し、協力します。

など、学校教育と連携した支援にご協力いただきますよう、お願いいたします。